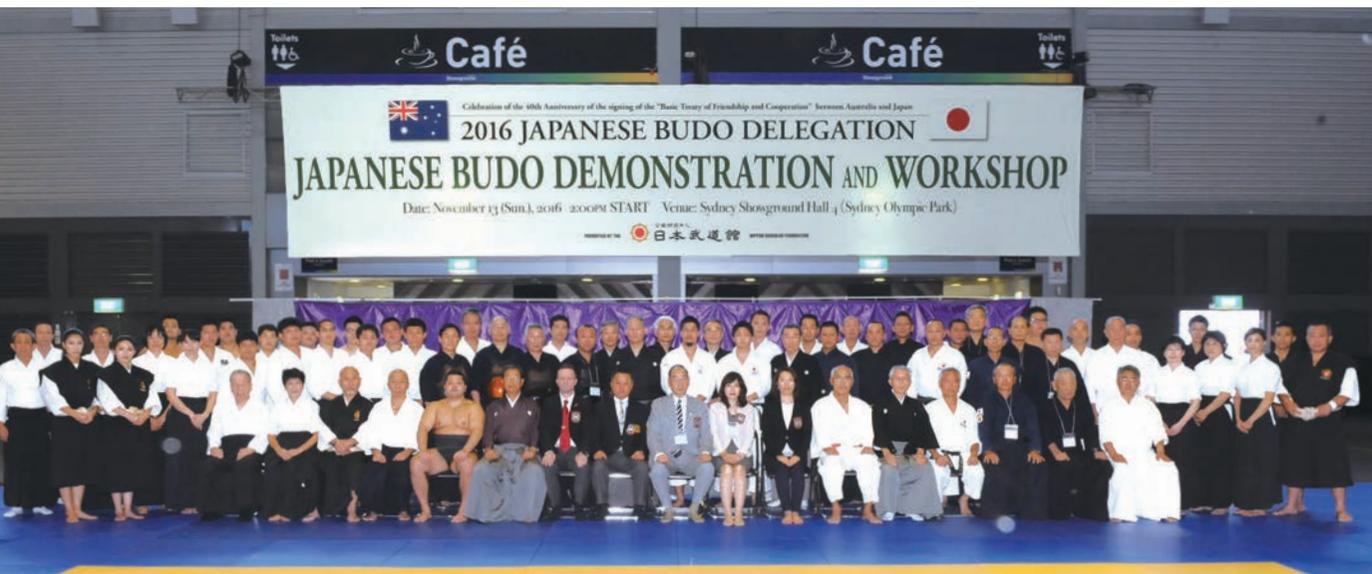


BUDŌ

NEWS

今月のニュース



オーストラリア連邦派遣日本武道代表团



2016年日豪友好協力基本条約調印40周年記念事業

オーストラリア連邦派遣日本武道代表团



13日・ワークショップ

日豪友好親善に寄与

日豪友好協力基本条約40周年事業
オーストラリア連邦派遣日本武道代表団（団長 臼井日出男 日本武道館理事長、主催 公益財団法人日本武道館・日本武道協議会、後援 スポーツ庁・外務省、協力 在シドニー日本国総領事館、協賛 日本古武道協会）は、現代武道9道、古武道3流派の計12種目76名で組織され、昨年11月9日～16日、オーストラリア連邦シドニー市において演武会、武道文化セミナー、交流稽古等を通じて日本武道の真髄を披露し、広く日豪友好親善に寄与した。

10日は二班に分れて日本人学校でのミニ演武会とニューサウスウェールズ州スポーツ庁・総領事館への表敬訪問を行った。11日はニューサウスウェールズ大学にて武道文化セミナー、12日は現地武道連盟との交流稽古会を実施、13日はシドニーオリピックパーク内ショーグラウンドホール4で武道演武会を披露した。

■新しい取組

渡豪前の二度にわたるプロジェクト事務局の現地打合せを経て、昨年までは使用していなかったSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の利用を決定した。現地の人に向けた紹介動画を掲載し、観客の動員に繋げることができた。演武会終了後のアンケートによると、回答者の約2割がSNSから本事業の情報を得て来場したことから、この取組が大きな成果を生んだといえる。

■結団式・壮行会（11月9日）

日本武道館第二小道場において、午後2時より結団式・壮行会が行われ、松永光日本武道館会長、各道連盟代表者、杉浦正敏外務省アジア大洋州局大洋州課長等が出席した。

松永会長は「本事業で日本や武道の素晴らしさをオーストラリアの国民にしっかりと伝えていただきたい」と壮行の言葉を述べた。次に、団長の白井日出男日本武道館理事長が挨拶に立ち、「日本の武道の真髄を示してまいります」と、派遣団の決意を表明した。続いて、福本修二全日本剣道連盟副会長兼専務理事の発声で本事業の成功を期して乾杯が行われた。

日本武道代表団は午後10時過ぎ、羽田空港からオーストラリア連邦シドニー市に向け、日本を発った。

■シドニー到着（11月10日）

10日、現地時間午前9時半にシドニー国際空港に到着。一行はその場で日本人学校ミニ演武会と、ニューサウスウェールズ州スポーツ庁・総領事館表敬訪問の2班に分かれ、それぞれバスに乗り込んだ。



結団式・壮行会



記念撮影



写 道

11/10
午後

■日本人学校ミニ演武会

日本人学校へミニ演武会をするために向かった班の団員は全55名。到着から4時間後の午後1時30分から始まった演武会、開会式で空手道の渡邊純一団員が代表挨拶。続いて、三浦昌道学校長が歓迎の祝辞を述べた。その後なぎなたの廣瀬幸子団員から、日本武道館発行の単行本が贈呈された。

280名の生徒・児童、保護者が見守る中、演武は弓道を皮切りに床・畳と2種目ずつ同時に行われ、最後は相撲の演武で締めくくられた。演武終了後、生徒たちは各々興味のある種目の団員のもとへ駆け寄り、一緒に写真を撮るなど交流した。閉会式では生徒を代表して中学3年大坪桃子さんのお礼のことばの後、大東流合気柔術琢磨会川辺武史団員の閉会挨拶で日本人学校でのミニ演武会は盛会裏に終了した。



相撲



銃剣道



柔道



剣道



宝蔵院流高田派槍術



ニューサウスウェールズ州スポーツ庁



白井団長よりアン・グリッパ―氏へ兜が贈呈された

11/10
午後

表敬訪問（スポーツ庁・在シドニー総領事館）

スポーツ庁訪問の班では、スポーツ&レクリエーショングループのエグゼクティブディレクターであるアン・グリッパ―氏が団員を出迎え、アン氏は「今回の派遣事業がより武道を広め、国際理解を促進し、豪日二国間の友好関係をさらに深めるよう祈っています」と挨拶。白井団長は「武道は今から千数百年前に生まれ、その後、長い時代の変遷を経て、心身ともに逞しい立派な人間を育てる人間教育の道として発

展してきました。貴国民の皆様にも、日本武道の真髄をご覧いただき、きっと喜んでいただけるものと確信しています」と応じ、今回の訪問についてオーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州スポーツ庁に対し謝辞を述べ挨拶とした。訪問の記念に、日本から持参した「兜」を贈呈。「兜」は、シドニーオリンピックの写真が掲げられている部屋の正面に飾られた。

スポーツ庁から総領事館に移動した代表団は、セキュリティチェックを受けた後、竹若敬三在シドニー総領事館総領事と面会。

白井団長は「日豪友好協力基本条約調印40周年の記念すべき年に、オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州スポーツ庁より招聘を受け、シドニー市において、日本の伝統文化である武道を披露できることは、大変意義深く、喜ばしく思います」と挨拶。

竹若総領事は「オーストラリアへの派遣は1988年以来と聞いてい



白井団長より竹若総領事へ単行本目録が贈呈された

るので、総領事館としても全力でサポートしたい。オーストラリア人はスポーツへの関心が高く、今回の事業が成功するよう祈念します」と応じた。表敬訪問は本事業の重要性を再確認するものとなった。

11/11
武道セミナー
(ニューサウスウェールズ大学)

行程2日目、派遣団はニューサウスウェールズ大学において武道セミナーを行うべく午前9時に移動を開始。午後2時からのセミナーを前に、午前11時前からリハーサルを実施し、本番に臨んだ。

白井団長の「闘争の手段として発展した武道が、今日では心身ともに逞しい人間を目指すための人間教育の道となり、日本では3000万人が愛好している」という挨拶の後、大学を代表して学長補佐のマーク氏が挨拶。白井団長から日本武道館発



講演を行う小澤智団員

行の単行本目録が贈呈された。

セミナーでは、団を代表して北辰一刀流代表の小澤智団員が「日本武道の美とところ」の講演を行った。

小澤氏は、講演の最後を「中心軸を保持し、無駄をそぎ落とした合理的な構えこそ、日本刀の美しさにも通じる日本武道の美といえる。また、礼に始まり礼に終わる、相手を思いやり、敬う気持ち、これこそが修行によって培われてきた日本武道の美しい心である」と締めくくった。

セミナーは階段教室を使い、すべての種目が畳で演武を行った。演武者とセミナー受講者との距離が近く、団員の息遣いが聞こえるほどで、受講者たちは迫力ある演武を観覧することができた。セミナー受講のためだけに授業の一環として300km離れた地域からバスを連ねて観覧に来た中学校もあった。

終了後のわずかな時間、彼らは演武者に武具を触らせてもらったり、記念写真を撮影したりしていた。その中の女生徒は「初めて武道を見たが、中でもなぎなたの演武が特に良かった。習える場があれば是非やってみたい」と興味を示していた。



客席から大きな拍手が送られた



白井団長よりニューサウスウェールズ大学学長補佐のマーク氏に単行本目録が贈呈された

● 武道セミナー演武



大東流合気柔術琢磨会



なぎなた



少林寺拳法



合気道



北辰一刀流剣術



空手道



スポーツ庁アン氏の発声で乾杯

この日の夕刻、武道団は郊外にあるシドニー総領事館の公邸で、スポーツ庁関係者や現地武道連盟幹部も含め、在シドニー日本国総領事館主催のウェルカムパーティーに招待された。パーティーは竹若総領事、白井団長、アジアカ多文化大臣の挨拶に続き、スポーツ庁のアン・グリッパード氏の乾杯で始まった。団員たちは飲み物などが振る舞われる中、シドニーの景色を楽しみながら楽しいひと時を過ごした。

11/11 夕刻

総領事館主催
ウェルカムパーティー



海外派遣事業初の銃剣道交流稽古会

この日は種目ごとに分かれ、終日現地武道団体との交流稽古会が行われた。現地の相撲連盟はオーストラリアだけでなく、ニュージーランドやフィジーなど近隣諸国から参加者を集めたミニ国際大会を行い、相撲の団員たちはその来賓として招かれた。また、銃剣道は海外派遣事業において初の交流稽古会を実施することができた。団員は「現地の修行者と交流ができてとても嬉しかった。次回以降の派遣でも是非続けていきたい」と語った。

11/12

交流稽古会



柔道



銃剣道



空手道



剣道



合気道



なぎなた



相撲

本事業の中心となる演武会は、シドニーオリンピックの際に建設された「シドニーオリンピックパーク」内のショーグラウンドホール4で実施された。ホール4はもともと観客席が設置されていない会場のため、本演武会では、段差をつけた仮設観客席を設置した。天井が高く、コンクリート床の会場は、経験豊富な団員たちにとっても珍しいものだった。

リハーサルは午前9時から通して行われ、本番は午後2時に開始された。開会式を前に、武道代表団は、先住民族であるアボリジニーへの敬

● 武道演武会演武順

- | | |
|-----------|-------------|
| ① 弓道 | ⑦ なぎなた |
| ② 合気道 | ⑧ 大東流合気柔術 |
| ③ 剣道 | ⑨ 琢磨会 |
| ④ 少林寺拳法 | ⑩ 銃剣道 |
| ⑤ 北辰 刀流剣術 | ⑪ 空手道 |
| ⑥ 相撲 | ⑫ 宝蔵院流高田派槍術 |

11/13

武道演武会&ワークショップ
(シドニーオリンピックパーク)



大東流合気柔術琢磨会



宝蔵院流高田派槍術



北辰一刀流剣術



少林寺拳法



弓道



2100名を超える観客が集まった



合気道



剣道

● ワークショップ

意を表すセレモニーを行い、続いて歌手の垂水由紀氏による日豪国歌独唱が行われた。

開会式が始まり、白井団長は「今回貴国を訪問しているメンバーは、いずれも日本を代表する一流の指導者や選手です。現代武道9道と古武道3流派の磨きぬかれた代表的な演武をご披露します。ぜひ皆様に日本武道の心と技を肌で感じとっていただきたい」と力強く挨拶し、続いてスポーツ庁のスポーツ&レクリエーション・エグゼクティブディレクターであるフィル・ハンドルフ氏が歓迎の挨拶。最後に竹若総領事から「日本とオーストラリアは政治だけでなく、文化的にも強いパートナーシップで結ばれている。この演武会を通して、その絆がさらに強固なものになるよう願っています」と祝辞があった。

約5分間の演武準備の後、各武道の演武が始まった。8分間ずつの迫力ある演武を行うと、会場は大いに沸いた。演武会は前半・後半の2部制で、前半は相撲、後半は柔道のちびっ子体験が実施され、演武会終了後はワークショップが行われた。ワ

ークシヨップも前半と後半に分けて行われたが、どの武道も体験希望者が多く集まり、団員たちはうれしい悲鳴を上げていた。入場者数は2100名を超えた。「真の国際交流とは、自国の文化を誇りに思うと同時に、他国のそれぞれの文化を尊重し、敬意を払うことから始まる」と白井団長は締めくくった。演武会、ワークシヨップが無事終了した。団員たちの笑顔は、派遣事業の大成を物語っていた。



垂水由紀氏による
日豪国歌独唱

11/13
夕刻

打ち上げパーティー

演武会の後、ホテルに戻った派遣団は、現地の連盟や、ボランティアスタッフを招き、演武会の成功と、現地連盟への感謝を込めて打ち上げパーティーを実施した。剣道の網代忠宏団員の乾杯で始まり、途中で現地連盟の紹介を挟みつつ、

和やかに進み、弓道の渡辺鐵哉団員の挨拶で会は終了となった。

11/14
夕刻

解団式

夕刻、派遣団はシドニー湾内を巡る船上クルーズにて解団式を執り行った。白井団長は、「今回の派遣事業の成功は、団員一人ひとりの尽力によります。常日頃の修練が演武につながり、オーストラリアの人々に武道の素晴らしさを披露することができました。道に終わりはありません。帰国した後も、引き続き鍛錬に励んでいただきたい」と団員へ労いの言葉を述べた。
懇談後、各道の代表者が各々の感想をスピーチし、解団式は少林寺拳法松井邦彦団員の挨拶でお開きとなった。

■日本に帰国（11月15日）

派遣団は、全行程を成功させた充実感を胸に、シドニー空港から出国。15日早朝、全員無事に羽田空港に到着。日本に帰国した。

◎派遣団員名簿 ※敬称略

◇団長

白井日出男（日本武道館理事長）

◇団長秘書

貴嶋美知子

◇コーディネーター

アレキサンダー・ベネット

◇外務省

坂上千明

◇日本武道館プロジェクト

吉川英夫、市原雅彦、松林裕樹

◇柔道

小俣幸嗣（八段）、多田隈和博（七段）、芳森信吾（六段）、渡部茂也（六段）、平岡拓晃（五段）、三山悟司（四段）

◇剣道

網代忠宏（範士八段）、岸田芋（教士七段）、安藤誠基（教士七段）、山下孝明（教士七段）、大門進（教士七段）、木部篤生（教士七段）

◇弓道

渡辺鉄哉（教士七段）、佐々木和人（教士七段）、戎政實（教士七段）、田口大祐（教士七段）、岩城美文（教士七段）、三池真幸（四段）

◇相撲

比嘉雄紀（三段）、濱町三太郎（二段）、大庭勝太郎（三段）、恒次洗輝（二段）、安川宏章（三段）、坂本健（三段）

◇空手道

竹川達男（教士七段）、渡邊純一（錬士公認七段）、高山雅彦（教士七段）、佐藤秀喜（錬士六段）、杉野拓海（参

三段）、在本幸司（参段）

◇合気道

大澤勇人（七段）、日野皓正（五段）、伊師雅人（五段）、里籠潤（参段）、酒井貞慈（三段）、中村祐介（初段）

◇少林寺拳法

松井邦彦（大範士八段）、井戸家正旺（正範士七段）、東野奈多（正拳士四段）、栗原千皓（正拳士四段）、谷聡士（正拳士五段）、秋元宏介（正拳士四段）

◇なぎなた

三浦利枝子（錬士）、廣瀬幸子（教士）、天川彰子（錬士）、山本千代（錬士）、田中ひかる（錬士）、田村佳奈子（五段）

◇銃剣道

井澤継男（範士八段、瀬尾憲次（範士八段）、浦部聖二（教士七段）、齊藤孝（教士七段）、加藤久幸（教士七段）、元山圭太郎（錬士七段）

◇大東流合気柔術琢磨会

森恕（総務長）、川邊武史（指導部長）、西谷修（七段）、吉田英洋（四段）

◇北辰一刀流剣術

小澤智（代表）、高山陽好（大目録皆傳）、上田忠夫（中目録）、吉田信二（初目録）

◇宝蔵院流高田派槍術

一箭順三（第二十一世宗家）、前田繁則（免許皆伝）、若林幹雄（免許皆伝）、美馬博幸（免許皆伝）

◇記録

後閑信弥（棟クエスト）

団長以下総勢76名

好評発売中

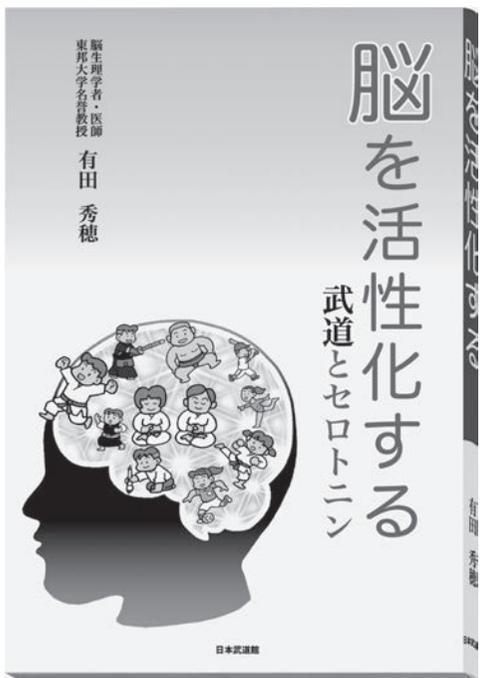
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税



有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。

主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレッチとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光

東邦大学名誉教授 有田 秀穂

： 他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

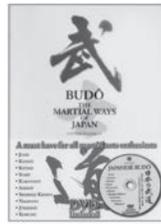
日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)

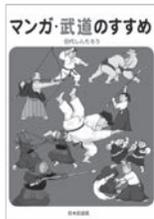


武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

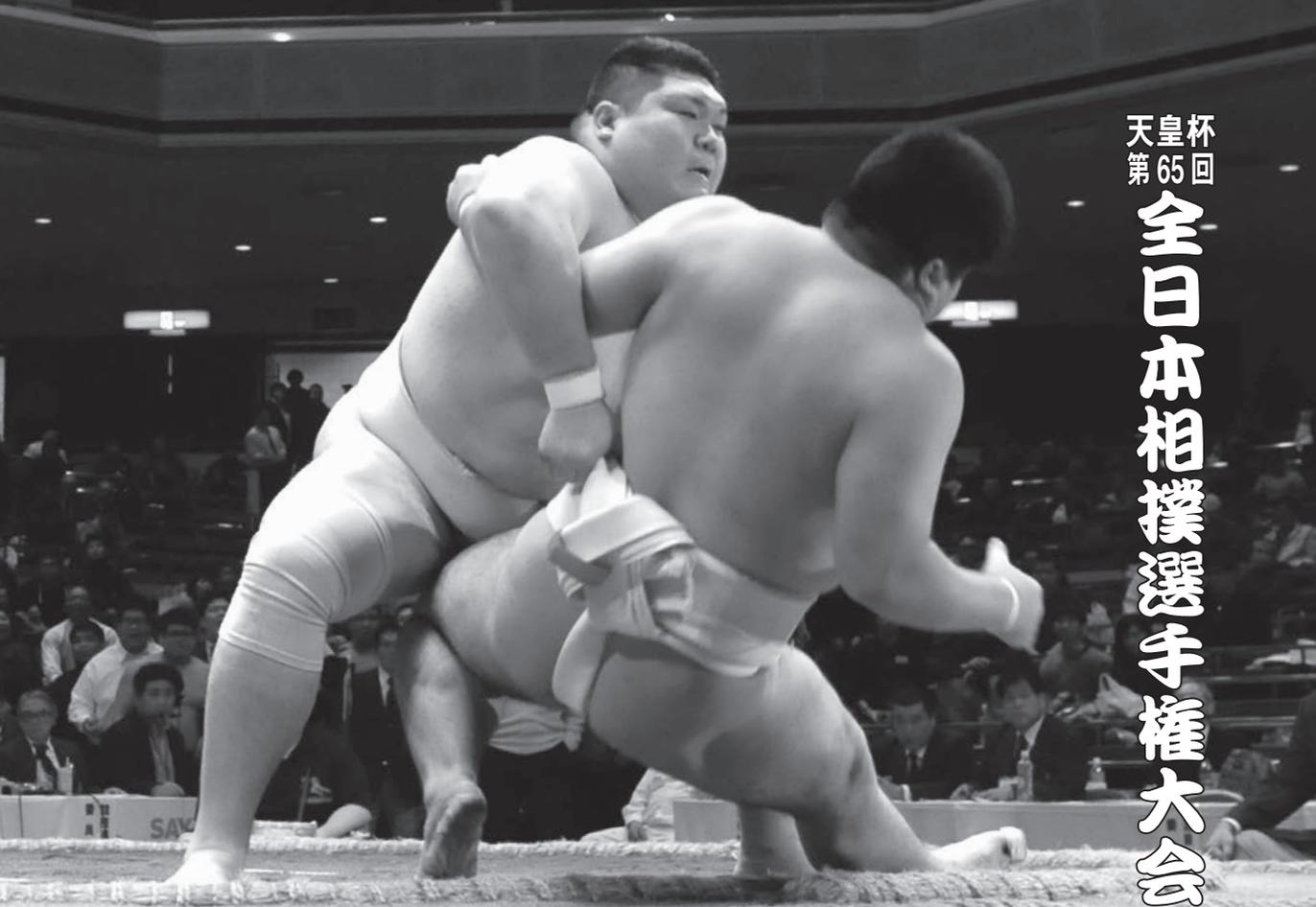
埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)

杯回
天皇第65回

全日本相撲選手権大会



矢後太規 (中央大4年) アマチュア横綱に輝く



開会式

第65回全日本相撲選手権大会(主催II日本相撲連盟)は昨年12月4日、両国・国技館で開催された。2300名の観衆が詰めかけ、全国から社会人32名・大学生34名・高校生2名の総勢68名が出場し、アマチュア相撲日本一を目指した。大会では矢後太規(中央大4年)が、深井拓斗(東洋大1年)を破り、初優勝を飾った。現役の中央大生として26年ぶりの優勝となった。

大会は、予選を3回行い優秀選手36名を決定し、決勝トーナメントが行われた。

決勝トーナメント①・②・③回戦

昨年の東日本学生相撲個人体重別選手権大会135kg以上級優勝で、初優勝を目指す中央大4年の矢後太規は、2回戦で西方航（栃木）を寄り切って、3回戦では、西日本実業団



3回戦=矢後（右）の寄り切り



3回戦=深井（右）の寄り切り

選手権大会個人2位の森本太良（和歌山県庁）を左四つから土俵際に追い込み、そのまま寄り切って退けた。矢後は準々決勝へと駒を進めた。

今年の東日本学生相撲個人体重別選手権大会無差別級3位で東洋大1年の深井拓斗は、2回戦では富田元輝（和歌山県庁）を下手投げで退け、3回戦では、昨年3位の黒川宏次郎（拓殖大）を降した由留部圭祐（愛媛）と対戦。左下手を取った深井は、腰を落として右を差すと、瞬く間に寄り切って準々決勝に進出した。

一昨年・昨年と準優勝の黒川宗一郎（アイシン軽金属）は、1回戦では西郷智博（鳥取）を寄り切り、2回戦では一ノ瀬康平（福岡）を押し出した。3回戦、立合後、当たってきた南友太（日本体育大）の上体

を起こして左へといなし、上手投げで退けた。黒川は、自分の相撲に徹し、順当に勝ち進む。

東洋大学職員のベテラン荒木関賢悟は、1回戦では橋本幸一（九州情報大）を押し出し、2回戦では東洋大学の白石雅仁を押し出して降す。3回戦では、神山達哉（アイシン精機）と対戦。右上手をとった神山は優位な体勢となる。しかし、軸足が深く内側に入りすぎた神山。その背に荒木関は体を乗せて、神山を崩し、突き落として勝ちを収めた。

今年の全国学生相撲選手権大会3位の村田亮（東洋大）は、2回戦で滝田真（三重）を突き出しで破り、3回戦では、同じ金沢出身でライバルの中村友哉（金沢学院大）と対戦。立合後、村田は搦ち上げ、落ち着いて押し出して勝利した。

昨年5位の中出雄真（東洋大職員）は、2回戦では片村敬也（日本大）を叩き込みで降した。3回戦は岡田祐輔（アイシン精機）との金沢市立高・東洋大の同門対決となった。右上手を取った岡田が優位な体勢となる。搦ち上げようとする中出に突き出しを決めた岡田。しかし、

審判の異議申し立てにより、岡田の足が出ていたとの判断により、中出が寄り切りで制し、ベスト8に進出した。

古川貴博（日本大）は、2回戦では大波渥（東洋大）を押し出しで、3回戦では、右へ八艘飛びの奇襲をみせた野口清之（長崎）を落ち着いて送り出して、勝ち進んだ。

寺沢樹（東洋大）は、2回戦で昨年覇者のトゥルボルドと対戦。立ち合いで寺沢は突きを繰り出し、左右に揺れるトゥルボルド。すかさず、寺沢はトゥルボルドの右手を抱え、右後方に振り倒した。鮮やかな網打ちが決まり、寺沢が勝利した。3回戦では、攻めあぐむ三輪隼斗（日本体育大）を上手出し投げで破り、準々決勝に進出した。

2回戦=トゥルボルド（奥）が敗れる



3回戦=黒川（奥）の立合い



2回戦=トゥルボルド（奥）が敗れる

準々決勝

黒川宗一郎 ○突き落とし 村田亮
立合いで両者は当たりに行き、五分の展開。黒川は右上手を取ろうとするが村田はそれを阻み、諸差しの体勢となる。そのまま寄り切りたい村田は攻勢をかけ、土俵際に黒川を追い込む。黒川はそれを凌いで、左上手を下手に巻き替え、右から突き落としを決めた。黒川は3年連続のベスト4に進む。



準々決勝Ⅱ黒川（左）の突き落とし

深井拓斗 ○寄り倒し 中出雄真



準々決勝Ⅱ深井（左）の寄り倒し

東洋大の学生と指導者の一番。立合いから、左上手を取った深井。両者は土俵中央で右四つの姿勢で膠着する。動いたのは深井。左上手から寄り切ろうと積極的に引きつける。しかし、中出も30kgの体重差を生かし、これを堪えて、なかなか試合は展開しない。1分以上が経過し、深井が左から寄り倒して準決勝へと進出した。

荒木関賢悟 ○押し出し 寺沢樹

荒木関は2回戦の白石との対戦同様、普段、東洋大で指導している学生である寺沢と対戦。寺沢は2回戦でトルボルドを破っている。学生との対戦はやりづらかったという荒木関。しかし、立合いでは負けじと突っ張りを繰り返す。寺沢も怯まずに前へと叩きに出るものの、荒木関は怯むことなく、突き続ける。荒木関が突きの攻勢を見事に制し、コーチとしての意地をみせて勝利。6年ぶりの準決勝進出を果たした。



準々決勝Ⅱ荒木関（右）の突張り

矢後太規 ○送り倒し 古川貴博



準々決勝Ⅱ矢後（左）の送り倒し

立合い後、古川は諸差しを取りに出るが、それを防ぐ矢後。矢後は古川の左脇を大きく上げ、右上手を取りにかかると、今度は古川が拒み、試合はそのまま膠着する。静止状態から動いたのは矢後。前に出ながら古川の左小手を右で巻き込み、一気に送り倒して勝利。矢後は準決勝へと進んだ。

準決勝

深井拓斗 ○寄り切り 黒川宗一郎

大学1年での決勝進出を目指す深井と、2年連続準優勝で今年こそはアマチュア横綱の座を勝ち取りたい黒川との対戦。立合後、深井は諸差しをとった。深井は頭をかまして左手で黒川の前禪まへぜんを取り、黒川の右

差しを封じておつつける。深井は、左下手を取って右を浅く差し、優位な体勢となる。そのまま、土俵際まで黒川を追い込む。必死に踏ん張り、上手を取ろうとする黒川だが、寄り切って深井に軍配が上がった。深井は決勝の舞台へと上り詰めた。



準決勝Ⅱ深井（左）の寄り切り

矢後太規 ○押し出し 荒木関賢悟

決勝に進んで優勝を果たし、プロへと進みたい矢後と、角界入りは考へてはいないがこの世代の強さを見せたいと語った30代の荒木関。立合い、腰を落とし勢いよく当たった。矢後荒木関だが、矢後は怯まない。右前禪を取りに出る矢後に、荒木関

は一步後退し、それを防ぐ。突き合いでは、荒木関が優位となり、矢後を土俵際まで追い込もうとする。しかし、荒木関を右に叩きながら回り込み、それを堪える矢後。右上手をとった矢後は左も差し、体勢を整え、形勢は逆転、一気に荒木関を押し出した。矢後は決勝進出を決めた。



準決勝＝矢後（右）の押し出し

決 勝



中央大4年の矢後太規と東洋大1年の深井拓斗の対戦となった決勝。

矢後が勝てば中央大生として26年ぶりに、第39回大会優勝の栗本剛（中央大）以来の優勝となる。一方、深井が勝てば、大学1年での優勝となるため、第33回大会優勝の久嶋啓太（日本大）以来、32年ぶりの快挙となる。今大会で、深井のコーチである荒木関を破った矢後と、黒川宗一郎をはじめ、すべて社会人を破って勝ち上がった深井。

両者は共に初優勝を目指して激突した。

矢後太規 ○寄り倒し 深井拓斗

立合いは互角。両者は一瞬、後退する。直ぐさま矢後は右上手を取り、左も差した。深井は立て直そうとして、左足を開き、右から回そうと試みる。しかし、矢後は右上手をしっかりと取っており、それを封じる。矢後は深井の抵抗には動じず、前へと出て、寄り切った。

自分の相撲を取り切り、アマチュア相撲日本一をつかんだ矢後。その目には嬉し涙がこみ上げた。

優勝者インタビュー



矢後太規（やご・たかのり）

平成6年7月8日生まれ、北海道出身。
186cm・165kg、埼玉栄高等学校卒、中央大学4年生。第54回全国選抜大学・実業団対抗相撲和歌山大会個人2位、第42回東日本学生相撲個人体重別選手権大会135kg以上級優勝

◎優勝Ⅱ矢後太規参段（中央大学） やごたかのり

「信じられないです。今まできつい練習をやってきて、最後にこういう結果となり、本当に良かったと思います。決勝の土俵では、ここまできたら、自分の相撲を取り切ることが第一に考えました。すぐ自分の形になれたことが良かったです」

現役中大学生として26年ぶりの優勝となった矢後選手。今大会にはどのような気持ちで臨んだのであろうか。

「この大会では、思い切った相撲を取ろう」と臨みました。トゥルボルド選手など、次々と有力選手が負けていくなか、一番一番、しっかりと自分の相撲を取れば、必ず勝ちにつながると思っていました」

北海道芽室町出身の矢後選手。相撲を始めたきっかけを伺った。

「相撲を本格的に始めたのは小学5年生です。体が大きかったこともあって道場の先生に勧められ、隣の道場まで車で片道40分かけて通っていました」

中学までは北海道で稽古を重ね、高校では、相撲の名門、埼玉栄高校に進学。中央大学4年で、アマチュア横綱に輝いた。

今大会優勝で大相撲幕下15枚目格の資格をとった矢後。最後に今後の目標を伺うと、「角界入りを考えています」とプロ入りを前向きに語った。

矢後選手の今後に期待したい。

入賞者コメント

○準優勝Ⅱ深井拓斗参段(東洋大学)



「冬からスピードを重点として稽古を重ね、今大会に臨みました。」

▽3位Ⅱ荒木関賢悟四段(東洋大学)



職員

「準決勝で負けてしまいました。やはり、年齢を重ねてくると、体力、筋力などが衰えてきます。その辺りをなるべく維持できるように心がけております。そうすればもう少し、相撲を取れるかなと思います。寺沢選手とは東洋大学でいつも一緒に稽古をしています。普段はコーチの立場です。出来るだけ対戦したくなかったですけど、寺沢選手も勝とうと臨む試合ですので、絶対に負けられないと思いましたね」

▽3位Ⅱ黒川宗一郎四段(アイシン軽金属)

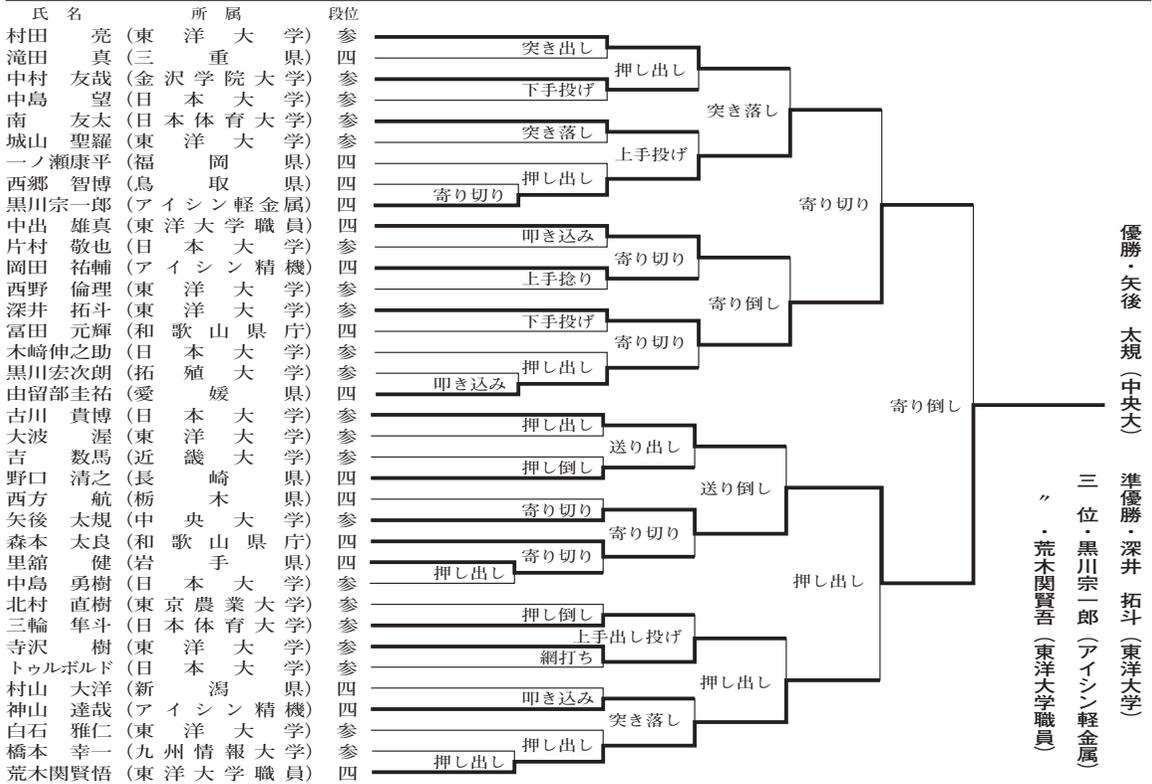


「今回を振り返ると、準々決勝までは完璧な試合ができましたが、

準決勝が一番駄目な試合となりました。立合いが甘かったです。左を差

(決勝トーナメント)

第65回全日本相撲選手権大会



第29回全日本小学生相撲優勝大会

全日本相撲選手権大会の予選と本選の間に、第29回全日本小学生相撲優勝大会が行われた。大会は、小学生の最高峰の競技会として位置づけられており、各ブロック相撲連盟はブロック大会を実施し、代表選手を決定。大会には小学6年生、5年生、4年生以下の3部門に各33名、計99名の代表選手が
出場し、熱戦を繰り広げた。

小学6年生では、過去2回優勝の成田力道（青森）が新島伊武起（鹿児島）を右四つから寄り倒し優勝を飾った。

小学5年生では山下昇介（鹿児島）が鈴木真実（静岡）を左四つから寄り切つて優勝。
小学4年生では西出大毅（和歌山）が武井銀士（静岡）を右四つから寄り切つて優勝を果たした。



小学6年生の部・決勝Ⅱ成田（右）の寄り倒し



小学6年生の部Ⅱ
左から成田、新島、三浦、田子



小学4年生以下の部・決勝＝西出（右）の寄り切り



小学5年生の部・決勝＝山下（左）の寄り切り



小学5年生の部＝左から山下、鈴木（真）、鈴木（希）、田崎



小学4年生の部＝左から西出、武井、山本、西島

【大会結果】

■小学6年生

▽優勝Ⅱ成田力道（青森）

▽準優勝Ⅱ新島伊武起（鹿児島）

▽3位Ⅱ三浦智一（青森）

田子麻聖（秋田）

■小学5年生

▽優勝Ⅱ山下昇介（鹿児島）

▽準優勝Ⅱ鈴木真実（静岡）

▽3位Ⅱ鈴木希（静岡）

田崎正美（大阪）

■小学4年生以下

▽優勝Ⅱ西出大毅（和歌山）

▽準優勝Ⅱ武井銀士（静岡）

▽3位Ⅱ山本十蔵（京都）

西島悠来（千葉）

日本武道館発行 単行本のご紹介

相撲 その歴史と技法

東京大学大学院
法学政治学研究所教授

新田 一郎 著



四六判・上製・422頁・2,400円+税

相撲の成立から現状を経て将来像へ

相撲の成立から、現代相撲の基本的な条件が整うまでの歴史の概略をたどり、相撲技術の歴史的な変遷について概観する。
「相撲はどこから来たのか、相撲とは何か、相撲はどこへ行くのか」を問う著者渾身の一書。

マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著
B5判・302頁・本体1,000円+税



収録偉人

- 嘉納治五郎(柔道)
- 高野佐三郎(剣道)
- 阿波研造(弓道)
- 双葉山(相撲)
- 船越義珍(空手道)
- 植芝盛平(合気道)
- 宗道臣(少林寺拳法)
- 園部秀雄と美田村千代(なぎなた)
- 鶴沢尚信(銃剣道)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！ 現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。大人も子供も楽しく読んで、歴史も学べる武道教養マンガ。

役に立つ 少年剣道指導法

香川大学教授・医学博士
剣道教士八段 山神真一 著

A5判・並製・258頁・DVD付・本体2,400円+税



解説DVD付属!



少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。少年剣道指導者必読の一書。付録のDVDには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間115分を超える映像で紹介。



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



今、なぜ武道か
 —文化と伝統を問う—
 福島大学教授
中村 民雄 著
 (四六判・上製・370頁)



BUDŌ:
THE MARTIAL WAYS OF JAPAN
 日本武道館 編
 翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
 (B5判・上製・DVD付・336頁)



武道
子どもの心をはぐくむ
 早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
 (四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く
 月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
 (四六判・上製・376頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
 柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
 大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



相撲は4名の先生方を紹介

武道各種目の概要を見開きで解説

塔尾武夫 現代相撲かくあるべし 下村勝彦 静岡焼津 さかなの町のわんぱく力士
 住吉和則 相撲好き遺伝子を守る！ 安井和男 先輩部長が育てる侍力士

山本千代錬士が連覇

(和歌山)



決勝＝山本千代（右）が長澤美咲のメンを攻める

皇后盃第61回全日本なぎなた選手権大会

皇后盃第61回全日本なぎなた選手権大会（主催）全日本なぎなた連盟）は、昨年12月4日、千葉県浦安市運動公園総合体育館で開催された。全国各地から選抜された精鋭54選手が、なぎなた日本一の座を懸けて覇を競った。

決勝で山本千代錬士（和歌山）が長澤美咲四段（愛媛）を降し、昨年に続き二度目の優勝に輝いた。3位には白川未樹四段（香川）が入賞した。

試合は5分間3本勝負のトーナメント戦で争われた。時間内に勝敗がつかない場合は、判定とした（決勝は3分間1回の延長あり）。

準決勝には、前回優勝の山本千代（和歌山）、初出場で全日本学生なぎなた選手権大会個人戦ベスト8・団体戦2位の白川未樹（香川）、同じく初出場で全日本学生なぎなた選手権大会団体優勝経験のある長澤美咲（愛媛）、前々回準優勝の吉井和代（東京）の4人が進出した。

◆準決勝

山本千代 判— 白川未樹

昨年選手権者の山本に対し、先手を打って白川がコテを攻める。一足一刀の間合いでの駆け引きが続く。試合が再開すると、鋭く打ち込む両者だが、一本が決まらないまま時間終了となった。旗判定の結果、山本の決勝進出が決まった。

長澤美咲 スコ— 吉井和代

ベテランの吉井に対し、長澤も打ち負けることなく互角に戦う。開始わずか18秒、長澤の連続技からスネが決まり、一本。続く立合いで、長澤が鋭いコテを放つと吉井が反応できず、一本。長澤が堂々の二本勝ちで決勝進出を決めた。



準決勝=山本（右）对白川

◆3位決定戦

白川未樹 判— 吉井和代

落ち着いた試合展開の中、先に攻めに出たのは吉井。遠間から面を放つが決め切れない。その後、白川が力強い打突を見せ、吉井が冷静に凌ぐ。幾度か膠着状態が続くも、終盤は、吉井がツキやスネを繰り返す。白川も攻めの手を緩めなかったが時間切れで試合終了。勝負は判定となり、3位が決定した。

◆決勝

山本千代 延メ— 長澤美咲

試合は静かな立ち上がり。先に攻めに出たのは長澤。山本も払ってからのスネ、遠間からのメンと攻めに出る。終盤に入ると、長澤も手数を増やし、激しい攻防となる。しかし、両者攻め切れないまま延長へ。延長50秒、競り合いから離れた瞬間、山本が一瞬の隙を突いて、メンを決められた。山本に旗2本が上がり、連覇が決まった。



3位決定戦=白川（左）が吉井のコテを攻める



左から白川末樹四段、山本千代錬士、長澤美咲四段

◎優勝Ⅱ山本千代選手（和歌山）

「とても嬉しいです」

連覇を達成して清々しい笑顔を見せる山本選手。今大会にどのような意気込みで臨んだのか。

「去年は上を目指すだけの気持ちだったんですけど、今年は追われる身でした。相手は私のことを研究してくるので、昨年よりもしんどい試合

になると思っていました。それに勝る自分の気力と体力が必要だということとで準備して大会には臨みました」

今大会には覚悟を持って臨んだが、予想通りの厳しい試合になったと語る。

「今回は2連覇したいという気持ちでしたし、追われる立場でプレッシャーがなかったと言ったら嘘になります。そういう意味で、精神的にも辛い試合になりました。とにかく一戦一戦大切にしながら戦おうと思っていました」

最後に今後の目標を語った。

「家族がいいと言ってくれるのなら、3連覇を目指して頑張りたいと思います」

和歌山県庁に勤め、家事や育児をこなしながら稽古に励む山本選手。家族に支えられ、強き母は闘志を燃やしていた。

○準優勝Ⅱ長澤美咲選手（愛媛）

「楽しめた部分と悔しい部分がありました。一回戦からずっときつかったです。この大会は他の大会と空気も違い、5分間という試合時間は初めてでした。いつもの地稽古では最

長3分間の試合をしていたんですけど、皇后盃に向けて5分間の試合をやってきました。

決勝戦は、自分が一本を決められる力がなかったので延長になってしまいました。そこで一本を決められるようにもつと精度を上げてやっていたかなければならないと思っています。

来年の愛媛国体で、自分の力が発揮できるように、今後も稽古に精進していきたいと思っています」

▽3位Ⅱ白川末樹選手（香川）

「3位になれるとは思っていませんでした。皇后盃というレベルの高い試合に出させてもらえたチャンスで、自分のものにできたらいいなと思つたことと、落ち着いてしつかり相手を見ようと意識して試合に臨みました。

昨年四段を取得し、今回の大会が初出場です。現在は、琴平高校のなぎなた部の顧問をしています。今後は生徒を優勝させるということもありますが、自分も競技者として生徒と一緒に切磋琢磨し、上位入賞を目指していけたらいいと思います」

公開演武

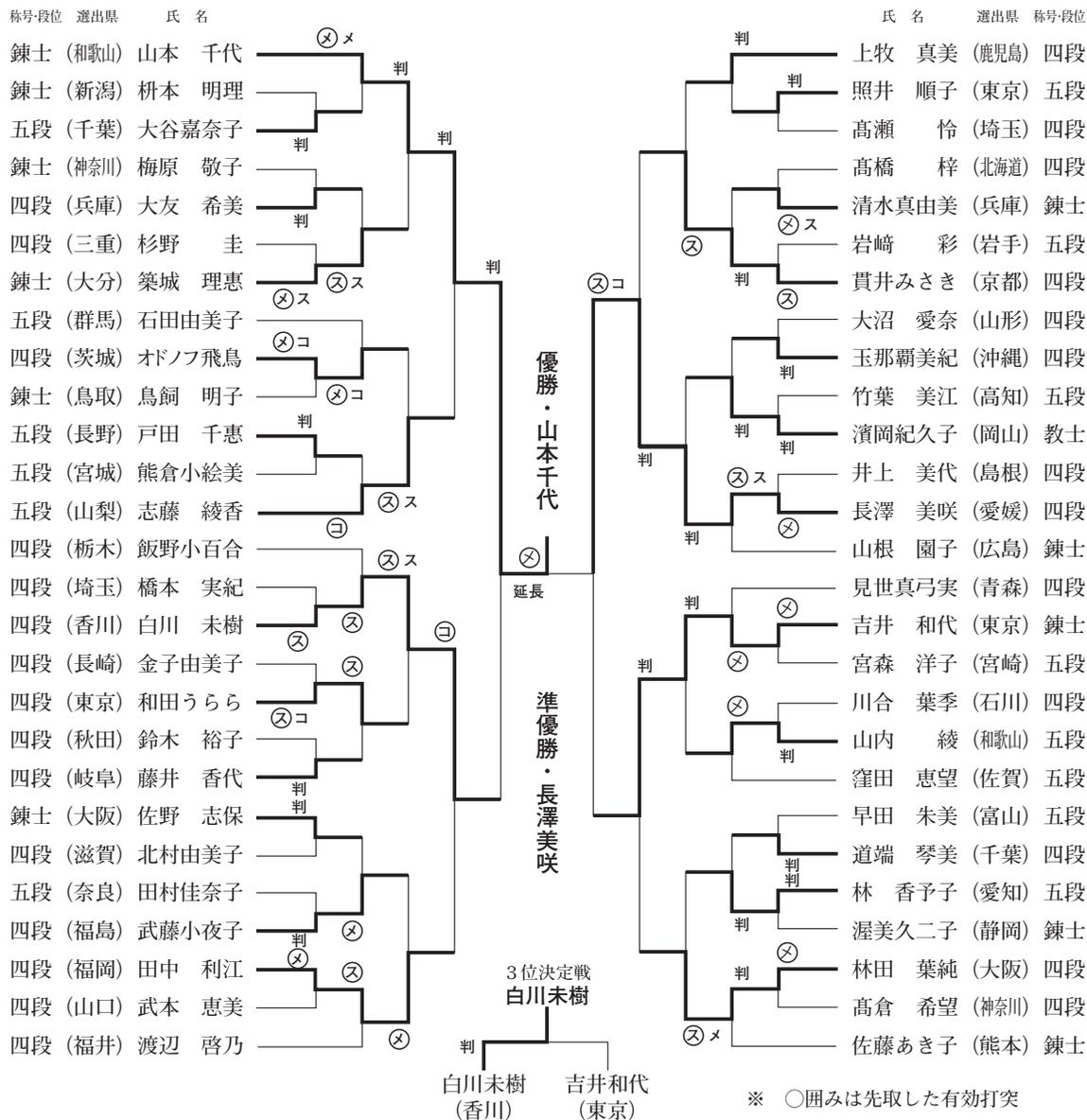


全日本なぎなたの形（仕・堀田和美、打・成田登代子）



天道流薙刀術（受太刀・砂川碧、仕太刀・木村恭子）

皇后盃 第61回全日本なぎなた選手権大会



リズムなぎなた (幕張なぎなたスポーツ少年団、瑞穂なぎなたスポーツ少年団)



公開演技

公開演武

直心影流薙刀術 (打太刀・園部正美、仕太刀・梶山武子)



決勝＝佐橋五月（右）が増田良明のメンを攻める

佐橋五月四段（愛知）が初優勝

第16回全日本男子なぎなた選手権大会（主催Ⅱ全日本なぎなた連盟）は、昨年12月3日、千葉県浦安市運動公園総合体育館で開催された。大会には、全国から42名の選手が出場。前回優勝の増田通仁二段（兵庫）が2回戦敗退という展開の中、決勝は、前回3位の佐橋五月四段（愛知）が増田良明四段（兵庫）を降し、初優勝を果たした。3位は大川宗則三段（茨城）が入賞した。

試合は4分間3本勝負のトーナメント戦で争われた。時間内に勝敗がつかない場合は、判定とした（決勝は2分間1回の延長あり）。

準決勝には大川宗則（茨城）、佐橋五月（愛知）、増田良明（兵庫）、藤田智也（三重）が勝ち上がった。

準決勝第一試合、大川対佐橋は、一進一退の攻防が続くが、判定で佐橋が勝ち、決勝進出を決めた。第二試合は増田対藤田。増田がメンを奪つての一本勝ちを収め、決勝進出。

◆決勝

佐橋五月 延メー 増田良明

序盤から積極的に攻めに出る佐橋。メンの連続技で攻める佐橋に対し、増田はスネを狙いに行く。佐橋は持ち替えてメンやスネを繰り返り出し、なおも積極的に攻める。増田も

要所で間合いを詰めて、スネの連続技で攻めるも決め切れない。両者、有効打突が奪えないまま時間となり延長戦へ。延長開始直後、佐橋は増田のなぎなたを払って鋭くメンを決めて一本勝ち。佐橋の嬉しい初優勝が決まった。

◎優勝Ⅱ佐橋五月選手（愛知）

延長の末、見事にメンを決めた決勝戦をこう振り返った。

「試合中に放ったメンに手ごたえを感じ、延長戦で再チャレンジしてみました。得意技が決勝の舞台で出せてすぐ良かったと思っています」

嬉しそうに語るが、その顔には冷静さも感じられた。

「賞をいただいた後は、賞状やカップをその日の内にしまっんです。ここで終わってしまったてはいけません。次がある、と思うようにしています」



3位決定戦=大川(左)対藤田



準決勝=佐橋(左)対大川



左から大川宗則三段、佐橋五月四段、増田良明四段



準決勝=増田(右)対藤田



○準優勝Ⅱ増田良明選手(兵庫)
「よくここまで勝ち進めたと思います。いつもは3、4回戦で負けていたので今回は良かったと思います。決勝まではいけましたが、最終的には相手に攻め込まれてしまい、思う

優勝してもなお先を見据える佐橋。自らの改善点を静かに語った。「自分のなぎなたはけっこう頼りない。ブレる試合が多い。そこを改善していきたいと思っています」
なぎなたは9歳から始め、今年で16年目。最後にその魅力聞いた。「先生の言った通りにやると試合で一本が取れる。それが楽しくて、さらに自分の得意技を見つけ、精度を上げて決め技にする。そして、一本を取る。これがいいと思っています」
社会人となり、練習の機会が少ない中、ストイックに稽古を重ねる佐橋選手に今後も注目していきたい。



参加者全員による団体基本

△3位Ⅱ大川宗則選手(茨城)
「なぎなたの最大の魅力は間合にあると思います。なぎなたは、遠くから長物を使つての攻防がたまらなく面白いです。力だけに頼らず身体を使つた正しいなぎなたで試合をすることができるとなりたいと思います。これからも日々なぎなたの稽古ができるよう努めていきたいです」

ような試合運びができませんでした。気持ちの問題や体力面も良くありませんでした。これからはそれらを課題にして稽古に取り組みます。また、試合前はものすごく緊張するんです。その緊張を減らせるようにつと内面を磨きたいと思います」

なぎなたという素晴らしい武道を
一人でも多くの人に伝えたい



私の歩んだ

なぎなたの道

元全日本なぎなた連盟顧問

徳永千代子 著

(四六判・上製・252頁)

戦前の薙刀術教員養成所に始まり、戦後の苦難の復興期を経て、現在の隆盛に至るまで、著者自身が歩んだなぎなたの道を振り返りながら、なぎなたの素晴らしさを謳い上げた会心作。なぎなた愛好者のみならず、武道指導者必読の一書。

◇第1章多感な少女時代 ◇第2章薙刀術教員養成所 ◇第3章卒業 ◇第4章なぎなた教師◇第5章全日本なぎなた連盟結成 ◇第6章財団法人化 ◇第7章体協加盟と国体参加 ◇第8章生涯続くなぎなたの道



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携書。



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版がついに刊行! 海外武道修業者・関係者におすすめしたい決定版。



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。



贈る言葉

なぎなた範士からのメッセージ

月刊「武道」編集部 編

(四六判・上製・366頁)

全国各地のなぎなた範士25名が、後世のなぎなた人へ贈るメッセージ。近代なぎなたの史料ともなる各範士の歩みを綴った半生記集。



武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

(四六判・上製・348頁)

『風姿花伝』、『兵法家伝書』、『五輪書』など、代表的な武道伝書をわかりやすく読み解き、読者のためになるメッセージを贈る。



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に直接インタビュー取材し、武道の良さ、素晴らしさをおもしろく、わかりやすく描く。



なぎなたに夢を馳せて

沖縄県なぎなた連盟会長
国際なぎなた連盟副会長

長濱 文子 著

(四六判・上製・356頁)

沖縄におけるなぎなた成長の道のりを、連盟会長として組織運営・人材育成に携わってきた著者が振り返る。



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

傘寿を超えた武道界の先達30名が贈る、後輩への熱きメッセージ。修行時代から現在までの足跡を辿る、後世に残す記録集。

柔道グランプリスラム東京

2020年東京五輪を目指して

阿部一二三(男子66kg級)が2年ぶり2度目の優勝



会場となった東京体育館

JUDO GRAND SLAM TOKYO 2016



66kg級決勝＝阿部（右）対橋口。阿部が背負落一本で優勝を決める

男子

▽60kg級

先月の講道館杯で優勝した永山竜樹（東海大）とリオ五輪銅メダリストの高藤直寿（パーク24）が決勝で対決。永山は大学の先輩でもある高藤に果敢に立ち向かうも、やや押され気味に試合が進む。指導が一つ

1年を締め括り、日本で開催される唯一の国際大会である柔道グランドスラム東京（主催Ⅱ国際柔道連盟、主管Ⅱ全日本柔道連盟）が昨年12月2日～4日の3日間、東京・千駄ヶ谷の東京体育館で開催された。体重別に男女14階級の試合が行われ、4年後の東京オリンピックを見据えた熱戦が繰り広げられた。リオ五輪の日本代表選手の多くを怪我や休養で欠いたものの、男子は高藤直寿、永瀬貴規、女子は近藤亜美、梅本真美、山部佳苗の計5選手が出場。日本は10個の金メダル、9個の銀メダル、16個の銅メダルを獲得して、総合1位の成績。2020年に向けて順調な船出となった。



男子60kg級決勝＝永山（奥）の内股が決まる



男子66kg級決勝＝阿部（右）が袖釣込腰の有効で先制する

永山に入って、試合時間残り50秒で高藤が背負投を仕掛けるが決まらな
い。高藤はそのまま潰れようとする
が、永山は組手を切らずに繰り返し
内股を仕掛けると、堪えきれなくな
った高藤の身体が一回転。永山が先
輩高藤を一本で降して、嬉しい初優
勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ永山竜樹選手（東海大）

「この大会で高藤先輩に勝って優勝
したいと思っていたので、それが出

来て良かったです。先輩なので、絶
対勝ってやろうという気持ちでし
た。この大会で優勝して、2020
年のオリンピックに向けてアピール
しようと思っていたので、良かった
です。しっかり一本を取る柔道をし
ていこうと思います。4年後のオリ
ンピックで金メダルを取ります」

▽66kg級

決勝に残ったのは、調子良く技を

決めて勝ち上がってきた阿部一二三
（日本体育大）と、講道館杯でその
阿部を袖釣込腰一本で降した橋口祐
葵（明治大）。試合開始から阿部が
積極的に出る。すると、開始1
分、講道館杯でのお返しとばかりに
阿部が袖釣込腰で有効を奪う。その
約30秒後、組手争いから、阿部は橋
口の襟を掴むやいなや、低く沈み込
んで背負落を仕掛ける。阿部は橋口
が反応する間を与えず、豪快に畳に

叩き付けて見事な一本勝。阿部が2
年ぶりにグランドスラム東京を制し
た。
◎優勝Ⅱ阿部一二三選手（日本体育大）
「嬉しいのと、ホッとしている感じ
と両方あります。講道館杯で投げら
れて負けている相手だったのでリベ
ンジできました。今日は自分の良い
ところがたくさん出て、しっかり投
げて自分の柔道ができました。これ
からは、オリンピックに向けてどう
アピールするかが大事になると思
います。圧倒的な力でオール一本を取
って、2020年のオリンピックで
優勝したいです」

▽73kg級

橋本壮市（パーク24）、土井健史
（ダイコロ）、立川新（東海大）、中
矢力（ALSOCK）が日本代表とし
て出場。中矢は2回戦で敗退。橋本
は準決勝で立川を指導差で、土井は
ベルギーのファンティヘルトを袖釣
込腰一本でそれぞれ降して、決勝に
進出。決勝戦、互いに激しく技を仕
掛ける橋本と土井だが、先に技を出
すのは橋本。ポイントが入らないま
ま試合は進み、残り1分30秒で土井



男子 73kg 級決勝＝橋本（下）が攻める



男子 81kg 級決勝＝永瀬（上）が内股返で有効を奪う



男子 90kg 級決勝＝クコリ（奥）が体落一本

に指導、終盤にも場外の指導が土井に入り、指導差2で、土井を降した橋本が初優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ橋本壮市選手（パーク24）

「最高の気持ちです。苦しい試合もありましたが、どんな柔道をしてでも勝つことを意識していたので、優勝に繋がってよかったです。今年海外の大会で4連勝したので、あとは大野を倒すだけだと思います。まずは世界選手権で金メダルを取ってからオリンピックを目指したいです」

▽81kg級

リオ五輪銅メダリストである永瀬貴規（旭化成）が2回戦から登場。順当に勝ち上がり、準決勝では春山友紀（自衛隊体育学校）と対戦。指導2で優勢勝して、決勝の相手はラッセル（ドイツ）。試合終盤、相手が仕掛けてきた内股を返して有効を奪うと、そのまま縦四方固がつつき抑え込んで一本。東京オリンピックに向けて順調なスタートを切った。

◎優勝Ⅱ永瀬貴規選手（旭化成）

「オリンピックが終わって最初の試合だったのですが、4年後の東京に向けてなんとしても優勝しようと思っていたので勝って良かったです。リオでは負けてしまったんですけど、改めて自分も強いんだというところを少し見せられたと思います。東京オリンピックで優勝するために、そして、リオで感じた悔しさを晴らせるように4年間頑張っていきたいです」

▽90kg級

準決勝には、日本からは西山大希（新日鐵住金）、長澤憲大（パーク24）が進出。しかし、西山はクコリ（セルビア）に小外刈の有効を奪われ、長澤はクルルゲ（フランス）にゴールデンスコアで内股透の技有を取られて敗れ、日本勢は決勝進出ならず。決勝戦、クコリ対クルルゲはクコリが指導2を取られて劣勢に立たされるも、残り1分30秒で技有を奪い、最後は体落一本で快勝した。

▽100kg級

日本から出場した、ウルフアロン（東海大）、飯田健太郎（国士館高）、下和田翔平（京葉ガス）、後藤隆太郎（慶應義塾大）の全員が準々決勝までで敗退。ウルフは準々決勝で一本を奪われた腕挫十字固で左肘を負傷し、その後の試合を欠場した。一方、飯田と下和田は敗者復活戦を勝ち抜き、3位を確保。決勝は、11月に階級を90kg級から100kg級にあげた



男子100kg級決勝=デニソフ（上）の内股透が有効の判定

ばかりのデニソフ（ロシア）とリオ五輪銅メダリストのマレ（フランス）の対決。試合は、デニソフが中盤に奪った内股透の有効のリードを守って優勝を果たした。

▽100kg超級

王子谷剛志（旭化成）、影浦心（東海大）、太田彪雅（東海大）七戸龍（九州電力）の4名が出場。全員が順調に勝ち上がり、準決勝は2試合



男子100kg超級決勝=王子谷（右）対影浦

とも日本人対決となった。準決勝第1試合、七戸対影浦の試合では、影浦は七戸に終始押されながらも、なんとか堪えて終了20秒前、七戸の内股を返して有効を奪取。影浦が決勝に進出した。第2試合、王子谷対太田戦では、指導差で王子谷が太田を降して初の決勝進出を決める。決勝戦、東海大の先輩後輩対決となった王子谷対影浦戦。王子谷右組、影浦左組のケンカ四つで激しい組手争い

が続ぎ、王子谷は体落、大内刈、影浦は背負投を仕掛けるが、手の内を知っているためか、両者ともに技のポイントを奪えない。試合が動かないまま5分間が過ぎ、最後は王子谷が指導一つの差で影浦を降して、初のグラントスラム金メダルを獲得した。

◎優勝II王子谷剛志選手（旭化成）

「去年のグラントスラム東京で負けてオリンピック出場がなくなったので、何が何でもこの大会で勝って、そこから繋げていこうと思っていました。勝ちたいという執念が強すぎて決勝ではまたしようもない柔道をしてしまい、自分の良さが出せませんでした。今日の大会は原沢選手も出ていないし、七戸先輩とも試合をしていないので三番手という位置は変わりませんが、4年間で一番手になりたいと思います」



女子

▽48kg級

大会4連覇を狙った近藤亜美(三井住友海上)は準々決勝で渡名喜風南(帝京大)に敗れ、その渡名喜も準決勝でムンフバト(モンゴル)に指導差で敗れた。日本勢は準決勝までに全員が姿を消した。渡名喜と近藤は3位決定戦に回り、共に勝利して3位入賞。決勝はムンフバトとジョン(韓国)の対戦となり、指導差でムンフバトが優勝。



女子48kg級決勝=ムンフバト(右)対ジョン

▽52kg級

ベスト4には日本人が全員残った。角田夏実(了徳寺学園職)は志々目愛(了徳寺学園職)を腕挫十字固で、阿部詩(夙川学院高)は立川莉奈(福岡大)を大外刈でそれぞれ降して決勝進出。決勝の角田対阿部は11月の講道館杯の準決勝戦と同じ顔合わせ(結果は角田が腕挫十字固で一本勝)。角田は寝技に引き込んでからの腕挫を狙い、阿部は腕挫を警戒しながら、大腰、内股を繰り出す。互いになかなか技が決まらない中、残り時間30秒で角田が巴投を



女子52kg級決勝=角田(下)が巴投で阿部を崩す

仕掛け、すかさず腕挫十字固に移行すると、しつかり関節が極まり、阿部はたまたま参った。角田がグラウンドスラム初優勝を果たした。

◎優勝II角田夏実選手(了徳寺学園職)

「やっと優勝を実感しているところです。初の国際大会で、海外選手と試合するのが凄く怖かったんですけど、少し手心えがあつたので、これからは戦っていけるかなと思います。代表争いに頭を出せたことは大きい一步になったと思います。今後は、立技、寝技への連携もやって自分の良いところを伸ばしていきたい

です。東京オリンピックに出場できるように4年間しつかりやっていきます」

▽57kg級

昨年の覇者、芳田司(コマツ)と宇高菜絵(コマツ)の決勝戦。所属先が同じで手の内を知りつくした者同士で、技が決まらない。試合はゴールデンスコアに突入。互角の攻防が続くが、ゴールデンスコア開始5分40秒、宇高に指導が入り、試合終了。芳田が延長を含めた約10分の激闘を制し、大会2連覇を果たした。



女子57kg級決勝=芳田(手前)対宇高

◎優勝Ⅱ芳田司選手（コマツ）

「宇高選手には、講道館杯で負けているので、リベンジする気持ちで臨みました。宇高選手は本当に強かったです。絶対にはけないという気持ちで戦いました。2連覇できたことは本当に嬉しいです。これからの大会で、一戦一戦、結果がついてきたら、2020年のオリンピックに繋がると思うので、一つひとつ頑張っていきたいです」

▽63kg級

日本人選手が次々に敗れる中、気を吐いたのが11月の講道館杯準優勝の嶺井美穂（桐蔭横浜大）。準々決勝でリオ五輪金メダルのトルステニヤク（スロベニア）を破る大金星をあげるなどして決勝進出。決勝の相手は世界ランキング4位のウンターワーザシャー（オーストリア）。嶺井は大内刈、大外刈などで積極的に攻めるがポイントは奪えない。試合中盤、ウンターワーザシャーが嶺井の大内刈に合わせて小外刈で返して有効。残り時間で取り返そうと攻める嶺井だが、時間切れで万事休す。嶺井は悔しい準優勝となった。



女子63kg級決勝＝ウンターワーザシャー（奥）が小外刈で嶺井から有効を奪う



女子70kg級決勝＝払腰で攻める新添（左）

▽70kg級

9月の全日本ジュニア、11月の講道館杯でも優勝を果たして勢いに乗る新添左季（山梨学院大）が勢いそのままに決勝に勝ち名乗りをあげる。対するは昨年の覇者、新井千鶴（三井住友海上）。新井は田知本遥のいない大会で負けられないとばかりに気合い十分。決勝までの全試合で一本を奪って勝ち上がった。決勝戦では、新添が先に良い組手になり、内股、払腰で攻めていく。新井はなかなか自分の形を作れず、指導

2が入る。新井は最後に寝技で新添の腕を取って関節技を狙うが時間切れ。新添が嬉しい初優勝を飾った。

◎優勝Ⅱ新添左季選手（山梨学院大）

「レベルの高いシニアの国際大会に出たのが初めてなので、優勝できて本当に嬉しいです。一試合一試合厳しい戦いだったので、少しの差でも勝ち抜くことができてよかったです。良いスタートを切れたと思います。これからは自分の得意な技をたくさん作って、綺麗に技を掛けて、投げて勝ちたいと思います」

▽78kg級

講道館杯優勝の佐藤瑠香（コマツ）は、準決勝でリオ五輪代表の梅木真美（環太平洋大）から小外刈で有効を奪い勝利。もう一つの準決勝ではバク（韓国）が高山莉加（三井住友海上）を退けて決勝へ。決勝戦、序盤から激しい組手争いになり、互いに自分の形を作れない。途中バクに指導が一つ入り、そのまま試合が動かず終了。佐藤瑠香が4年ぶりにグランドスラム東京での優勝を果たした。



女子 78kg 級決勝＝佐藤（上）対パク



女子 78kg 超級決勝＝朝比奈（右）対素根

◎優勝Ⅱ佐藤瑠香選手（コマツ）
「優勝してホッとしています。結果は良かったんですけど、内容が良くないので、もっと練習して、強くなりたいです。ひとつひとつの試合に勝っていったら、夢であり目標であるオリンピックの金メダルを取りにいきます」と

▽78kg 超級
決勝は朝比奈沙羅（東海大）と素根輝（南筑高）が、講道館杯に続いて対戦。序盤から体格差に怯まず前に出る素根に対し、朝比奈は内股、払腰で応戦。どちらも攻めるが技のポイントが取れないままゴールデン

スコアに突入。すると、開始40秒で積極的戦意に欠ける指導が素根に入り、朝比奈が勝利してグラウンドスラム初優勝となった。
◎優勝Ⅱ朝比奈沙羅選手（東海大）
「決勝戦はどちらが勝ってもおかしくない試合をしてしまったので素直に喜べない部分もあります。ですが、5年連続で出場してようやく優勝できたので、一皮むけたのかなと思います。2020年のオリンピックは、自分が先頭に立って、若手を引っ張っていきたいです。東京オリンピックに出て金を取るんだという気持ちで4年間やっていききたいと思っています」

【大会結果】

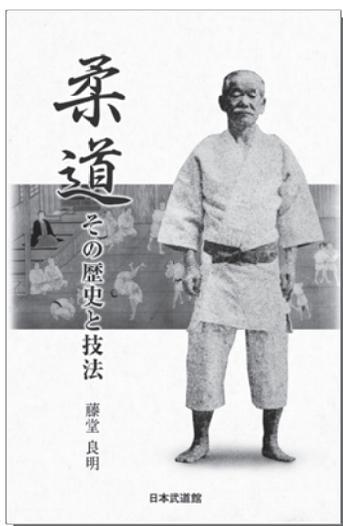
◆男子	優勝	2位	3位	日本選手
60 kg級	永山竜樹（東海大）	高藤直寿（パーク24）	ムシュビドバジ（ロシア） チェ・インヒュク（韓国）	大島優磨（国士館大）=2回戦敗退 志々目徹（了徳寺学園職）=2回戦敗退
66 kg級	阿部一二三（日本体育大）	橋口祐英（明治大）	ブルヤエフ（ロシア） ドゥブドン（モンゴル）	磯田範仁（国士館大）=3位決定戦敗退 高上智史（旭化成）=3位決定戦敗退
73 kg級	橋本社市（パーク24）	土井健史（ダイコロ）	立川新（東海大） ホポエフ（ウズベキスタン）	中矢力（ALSOK）=2回戦敗退
81 kg級	永瀬貴規（旭化成）	ラッセル（ドイツ）	イヴァノフ（ブルガリア） ラッピナゴフ（ロシア）	渡邊勇人（了徳寺学園職）=2回戦敗退、佐藤正大（国士館大）=2回戦敗退 春山友紀（自衛隊体育学校）=3位決定戦敗退
90 kg級	クコリ（セルビア）	クレルゲ（フランス）	長澤憲大（パーク24） 西山大希（新日鐵住金）	釘丸太一（センコー）=3位決定戦敗退 向翔一郎（日本大）=敗者復活戦敗退
100 kg級	デニソフ（ロシア）	マレ（フランス）	下和田翔平（京葉ガス） 飯田健太郎（国士館高）	後藤隆太郎（慶應義塾大）=1回戦敗退 ウルフアロン（東海大）=敗者復活戦敗退
100 kg超級	王子谷剛志（旭化成）	影浦心（東海大）	太田彪雅（東海大） 七戸 龍（九州電力）	
◆女子	優勝	2位	3位	日本選手
48 kg級	ムンフバト（モンゴル）	ジョン・ボギョン（韓国）	近藤亜美（三井住友海上） 渡名喜風南（帝京大）	森崎由理江（A-LINE）=1回戦敗退 遠藤宏美（ALSOK）=3位決定戦敗退
52 kg級	角田夏実（了徳寺学園職）	阿部詩（夙川学院高）	立川莉奈（福岡大） 志々目愛（了徳寺学園職）	
57 kg級	芳田司（コマツ）	宇高菜絵（コマツ）	前田奈恵子（三井住友海上） ドルジスレン（モンゴル）	石川慈（コマツ）=3位決定戦敗退
63 kg級	ウンターワーザシャー（オーストリア）	嶺井美穂（桐蔭横浜大）	ピノ（フランス） トルステニャク（スロベニア）	荒木禎乃佳（兵庫県警）=2回戦敗退、津金恵（筑波大）=2回戦敗退 能智亜衣美（筑波大）=3位決定戦敗退
70 kg級	新添左季（山梨学院大）	新井千鶴（三井住友海上）	ロドリゲス（ベネズエラ）	大野陽子（コマツ）=3位決定戦敗退
78 kg級	佐藤瑠香（コマツ）	パク・ユジン（韓国）	梅木真美（環太平洋大） 高山莉加（三井住友海上）	緒方亜香里（了徳寺学園職）=敗者復活戦敗退
78 kg超級	朝比奈沙羅（東海大）	素根輝（南筑高）	スウ・シン（中国） 山部佳苗（ミキハウス）	福森奈見（三井住友海上）=敗者復活戦敗退

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円+税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた[※]武道としての柔道、を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

<p>第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法</p>	<p>第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選士権大会の開催と技法</p>	<p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法</p>
<p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法 竹内流腰廻 関口新心流柔術 起倒流柔術 起倒流柔道 直信流柔道 真之神道流柔術 天神真楊流柔術</p>	<p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題</p>	

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)

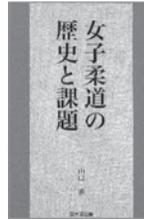


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)

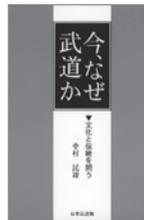


柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)

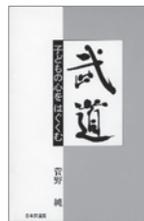


大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

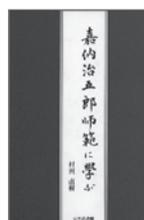


柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)

第60回全日本大学空手道選手権記念大会

京都産業大が近畿大を破り、優勝を飾る

男子
組手



《男子・組手決勝》 京都産業大と近畿大の先鋒戦＝京都産業大・釜口（左）の上段突き

第60回全日本大学空手道選手権記念大会が11月19日・20日の2日間、日本武道館において開催された。大会では男女の組手・形の団体戦が行われ、初日に男女団体組手が2回戦まで、男女団体形が準決勝まで行われ、最終日に各部門の決勝が行われた。男子組手では、京都産業大学が近畿大学の4連覇を阻み、4年ぶり4回目の優勝を果たした。女子組手は帝京大学が7年連続8回目の優勝に輝いた。形は男女とも帝京大学が制し、連続優勝記録を更新した（男子9年連続9回目・女子7年連続8回目）。

《組手》

試合は男子が5人制、女子が3人制、2分間6ポイント先取（1・2回戦は1分半、男子のみ準々決勝より3分）によって行われ、出場校が初戦以外の対戦においては、勝敗が決した時点で競技は終了とし、トーナメント戦で覇を競った。

男子・組手 (110校)

前回準優勝の京都産業大は、初戦は山梨学院大に5-0、続いて佛教大に3-0、立教大に3-0と完勝で勝ち進む。準々決勝でも駒澤大を3-0で破り、準決勝に進出した。

準決勝で京都産業大は、国士舘大と対戦。先鋒戦7-4、次鋒戦3-2と京都産業大がリードする。中堅戦、京都産業大・大西英輝と国士舘大・鹿村良介の対戦では、大西が上



《男子・組手準決勝》
京都産業大と国士舘大の中堅戦Ⅱ
京都産業大・大西(右)が上段突きで先取

段突きで先取する。試合はそのまま終了し、京都産業大が3-0で決勝に進出した。

4連覇を狙う近畿大も、福岡大に5-0、大阪大に3-0、日本大に3-0と完勝。準々決勝では早稲田大を3-1で降し、準決勝に進んだ。

準決勝で近畿大は、強豪の帝京大と対戦。先鋒戦5-3、次鋒戦3-2とし、中堅戦は4-4で引分け、2-0とした。近畿大・大迫睦と帝京・宮崎祐介の副将戦では、大迫の



《男子・組手準決勝》
近畿大と帝京大の副将戦Ⅱ
近畿大・大迫(右)の上段突きは有効

上段突きが連続で決まり、リードを広げる。しかし、宮崎も大迫が倒れたところに突きを決めて、逆転する。互いに上段突きを重ね、5-5となる切迫した展開となる中、試合は終了し引分け。結果、近畿大が2-0で制し、決勝へと進出した。

▽決勝

京都産業大 3-0 近畿大

○釜口幸樹 3-2 石濱直鴻

○大西英輝 2-1 船橋真道

○吉村文太 5-0 葭矢雄太

中島啓太 大迫 睦

藤澤貴樹 X 西村 拳

京都産業大と近畿大が決勝で対戦するのは6回目、その内、京都産業大は近畿大に4敗している。また、両校は今回で3年連続の決勝対決となり、この2年、京都産業大は準優勝に留まっている。

先鋒戦、京都産業大・釜口幸樹が上段突きで先取すると、近畿大・石濱直鴻も同じく上段突きを有効とする。石濱が上段突きでリードをとると、釜口が中段蹴りで逆転。3-2で勝利した。次鋒戦も2-1で勝利し、優勝に王手がかかった京都産業

大。中堅戦では、早々に京都産業大・吉村文太の上段突きが有効となる。その後も、吉村は上段突きでポイントを重ね、5-0で勝ちを収めた。京都産業大が近畿大を破り決勝対決3年目に雪辱の優勝を成し遂げた。

◎優勝Ⅱ京都産業大・荒賀龍太郎監督「全員が力を合わせて、出せた結果だと思えます。近畿大は必ず決勝に上がってくる相手だと思っていました。しっかりと練習もしてきましたので、選手たちには、気持ちだけは負けないようにと伝えました。

先鋒、次鋒と最後の最後でポイントをとったのは気持ちで負けなかった証拠かなと思います。来年、大西が抜けるのは大きいですが、後の4人が軸となって来年も連覇を目指したいですね」

◎優勝Ⅱ京都産業大・釜口幸樹選手「この試合を勝つためだけに、ずっと練習して頑張ってきたので、練習の成果が出てよかったと思います。近畿大には西日本でも負けて、去年も決勝で負けていたので、今回先鋒としてなんとしても勝って先輩たちに繋がられたらと思います。結果が出てよかったです」



男子・組手優勝の京都産業大Ⅱ
荒賀監督と喜び合う選手たち



男子・組手で優勝した京都産業大

女子組手

帝京大が7連覇達成

■女子・組手（81校）

連覇を狙う帝京大は、初戦から阪南大を3-0、青山学院大を2-0、長崎国際大を2-0、京都産業大を1-1の内容差により勝利。準決勝

では国士舘大を2-0で降した。

対して前回3位の近畿大は山梨学

院大を2-0、法政大を2-0、慶

応大を2-0、駒澤大を2-0で降

し、準決勝では同志社大に2-0で

勝利し、決勝に進出した。

▽決勝

帝京大 2-0 近畿大

○宮原美穂 6-0 清家 桜

○森口彩美 1-0 篠原 渚

川村菜摘 X 齋藤綾夏

先鋒戦、開始早々に帝京大・宮原美穂は上段逆突きを決める。立て続けに宮原は上段突き、上段蹴りを決め、5-0と大きくリードする。試合終了間際にも逆突きを有効とし6-0で勝利した。次鋒戦、帝京大・

森口彩美は上段逆突きが決まり、先取る。近畿大・篠原渚も巻き返そうと攻めに出るが、森口に距離をとられ、ポイントを取れない。試合はそのまま終了し、1-0で森口が勝ち、帝京大が2-0で7連覇、8回目の優勝を達成した。

◎優勝Ⅱ 帝京大・川村菜摘選手

「主将として最後の試合で、優勝できてよかったです。それに後輩たちもしっかりついてきてくれました。今は達成感でいっぱいです。連覇は先輩たちがずっと築いてくれたものなので、それを繋ぐというのが主将の役目だと思っていました。来年も後輩たちがやってくると信じています」



〈女子・組手決勝〉

帝京大と近畿大の先鋒戦Ⅱ 帝京大・宮原（右）の上段突き

形

女子・男子

帝京大が 男子9連覇 女子7連覇

《形》

3人制により、予選は指定形による採点方式で行われ、上位4校が決勝トーナメントに進出。決勝での試合時間は6分間、旗判定で競われた。

■男子・形（16校）

予選上位4校は順に、帝京大、国士館大、同志社大、拓殖大。

準決勝、帝京大と拓殖大の対戦で、帝京大はソーチン、拓殖大はゴジュウシホダイを演武し、旗判定により、帝京大が5―0で勝利した。



《男子・形優勝》帝京大＝ウンスー

一方、国士館大は同志社大と対戦。国士館大がウンスー、同志社大がスパーリンペイを演武。国士館大が3―2で勝ち、決勝へと駒を進めた。

決勝は、連覇更新を目指す帝京大と国士館大の対戦。初めに、帝京大がウンスーを、続いて国士館大がガンカクを演武した。帝京大が5―0の快勝で優勝。見事、9連覇に輝いた。

■女子・形（14校）

予選上位4校は順に帝京大、同志社大、大正大、駒澤大。



《女子・形優勝》帝京大＝ウンスー

準決勝、帝京大と駒澤大の対戦。

帝京大はゴジュウシホダイ、駒澤大はゴジュウシホダイを演武。帝京大が5―0で完勝した。同志社大と大正大の対戦では、同志社大がスパーリンペイ、大正大がゴジュウシホショウを演武。3―2で同志社大が大正大を退けた。

決勝は、初めに同志社大がクルルンフアを演武。対して帝京大はウンスーを行い、5―0で帝京大が勝利。形部門女子として、帝京大は7年連続8回目の優勝を飾った。

◎優勝Ⅱ帝京大・古澤香寿美選手

「初めてのチームだったので、連覇をつなげられたことが嬉しいですね。来年以降、後輩たちにはこの連覇を繋げてほしいと思います」

【大会結果】

■男子・組手

▽優勝Ⅱ京都産業大学

▽準優勝Ⅱ近畿大学

▽3位Ⅱ国士館大学・帝京大学

■女子・組手

▽優勝Ⅱ帝京大学

▽準優勝Ⅱ近畿大学

▽3位Ⅱ国士館大学・同志社大学

■男子・形

▽優勝Ⅱ帝京大学

▽準優勝Ⅱ国士館大学

▽3位Ⅱ拓殖大学・同志社大学

■女子・形

▽優勝Ⅱ帝京大学

▽準優勝Ⅱ同志社大学

▽3位Ⅱ駒澤大学・大正大学



女子・組手、男子・形、女子・形で連覇を達成した帝京大学

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(きんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光日本武道館会長



(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手からての精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

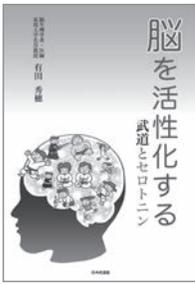
(四六判・上製・372頁)

脳を活性化する

武道とセロトニン

東邦大学名誉教授

有田秀穂 著

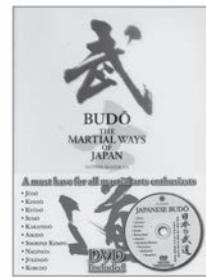


人間の心身を安定させるセロトニン——。その研究の第一人者が、誰もがができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

(A5判・並製・346頁)

BUDO: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

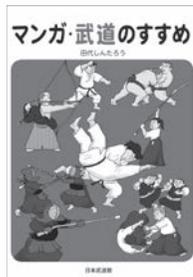


武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう 著



漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著
武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

田谷将俊 著

月刊「武道」記者



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)



2016年少林寺拳法全国大会 in おおいた

■大会テーマ

～未来へつなぐ“人 夢 心” 豊の国から～ 全国から 2600 名の拳士が出場

2016年10月29日・30日の2日間、大分県別府市にある別府国際コンベンションセンターB・CON PLAZAにおいて「2016年少林寺拳法全国大会 in おおいた」が開催され、競技の部21種目、発表の部8種目に全国から約2600名の拳士が出場した。

本大会のテーマは「未来へつなぐ人 夢 心、豊の国から」。これには全国から集結した多くの拳士「人」と共に、全国大会という「夢」の舞台で、開祖の志を受け継ぐ「心」を結集し、未来へ繋げていくという思いが込められている。

◆初日 10月29日

一般財団法人少林寺拳法連盟川島一浩会長による挨拶が行われ、大会がスタートした。この日は一部競技種目の予選が行われ、本選を目指して各コートで白熱した演武が行われた。

▽祝賀会

初日夜には、別会場にて祝賀会が行われた。来賓各位のご挨拶の他、地元郷土芸能の披露が行われ、和氣満々とした雰囲気の中、出席者同士



大会会場の様子



川島一浩
少林寺拳法連盟会長



宗 由貴
少林寺拳法連盟総裁



懇親を深めていた。後半にはサプライズの催しや、プレゼント等が行われるなど、様々に趣向を凝らした内容であった。

◆2日目 10月30日

2日目は各競技種目の予選・本選、発表の部が行われるとあって、会場では多くの立見が出るなど、熱気に包まれた。開会式後、各演武種目に先立ち「弁論の部」最優秀者2名の発表が行われ、心を打つ内容に会場全体が真剣に聞き入っていた。

続いて各コートで競技の部・発表の部の各演武種目が行われ、出場拳士は日々の修行の成果を発揮し、気迫のある演武が繰り広げられた。演武前には皆一様に緊張している様子であったが、演武後は安堵の表情を浮かべ、お互いに握手をしたり抱擁したりしている姿が多々見られた。出場者からは「緊張した」「演武が気持ちよかった」「最高の舞台だった」などの声が聞こえていた。

全種目終了後に行われたファイナルでは、九州各県で構成されている九州連絡協議会による九州各県の理事長、副理事長他の演武が披露され



女子二段の部



男子運用法の部



一般団体の部



中学生団体の部



親子の部

た。その様子は、大会パンフレットやポスターにも書かれていた「九州はひとつ 熊本・大分は負けない」を象徴している演武であった。その後、熊本・大分地震復興支援として本大会で募った募金が、九州各県を代表して熊本県連外川理事長に手渡された。

そして最後に宗由貴総裁より挨拶が行われ、本大会が終了した。大会

後は、記念写真を撮ったり、お互いに健闘を称えあう姿が遅くまで見られた。本大会では、主管の大分県連はもとより、九州各県の協力のもと、九州全体が一体となって大会が運営された。大会前に起きた数々の天災を乗り越えて開催された本大会は、心に残る大会となった。

（執筆：一般財団法人少林寺拳法連盟）

■大会結果（競技の部）

種目	最優秀賞	優秀賞	優良賞
男子マスターズ	酒井仙次・御厨文子（長崎県）	松浦俊也・千葉和仁（岩手県）	島澤良次・荒井英俊（東京都）
女子マスターズ	牧村万紀子・二村三葉（愛知県）	宇野加奈子・塩崎三恵（兵庫県）	浅芝春美・森下明子（奈良県）
男子四段以上	中村孔明・中村康仁（全日本実業団）	浦田堅人・山田葵（香川県）	小澤晴太・川島佑斗（東京都）
男子三段	大西彪雅・大西千匡（香川県）	木戸海周・佐上勇輝（大阪府）	小西悠介・恵中崇敬（全国高校）
男子二段	江連丈暁・末宗隆志（大阪府）	青木賢祥・佐藤佑亮（北海道）	大内喬介・大内絢介（大阪府）
男子初段	石川広都・新聞那粹（東京都）	坂田英作・廣瀬輝（東京都）	綾戸健祐・西山令（福岡県）
男子級拳士	栗原有吾・高木佳裕（埼玉県）	山川宗輝・田中恵斗（千葉県）	北村尚久・富高広基（大阪府）
女子三段以上	山本瀬菜・笹川理菜（大阪府）	堀尾愛・松田結夏（大阪府）	白石ももこ・柴田史佳（福岡県）
女子二段	幾川柚香・加来穂夏（東京都）	川畑依子・松尾春香（愛知県）	森川風輝・森川春菜（京都府）
女子初段	太田悠里・山下薫乃（全国高校）	宇恵柚花・荻田桐子（神奈川県）	内田裕理・内山田鈴菜（千葉県）
女子級拳士	島津文恵・佐藤華（東京都）	国賀稚七・松井みなみ（大阪府）	齊藤桃子・小田朱莉（埼玉県）
男女有段	堀井颯馬・岡本みさと（東京都）	富田勇人・東野奈多（大阪府）	清水大輔・杉森郁美（東京都）
男女級拳士	喜田航貴・安中日向子（東京都）	秋山和樹・鬼丸夏季（神奈川県）	武内悟・羽賀法子（京都府）
中学生男子	日光駿太・土本拓実（石川県）	吉田龍生・吉田祈代（岐阜県）	徳永郁弥・徳永聖弥（奈良県）
中学生女子	松永海央・帆足愛歌（大阪府）	塚田望生・斉藤美優（北海道）	岡田凜・小南雪乃（京都府）
一般団体	鈴木康平・石井堅悟 白石和馬・田川治緒 石井勝教・杉山悠太 大谷紘嗣・澤田武 （東京都）	川口裕三・上山学 高橋宏幸・立道和輝 後藤隆志・木村皓祐 笹川理菜・山本瀬菜 白川碩人・越智祐弥 （大阪府）	竹林万由子・北村真彩 森安理紗・田尻曜子 山田麻理亜・二木遥香 山崎千恵・柴原優美香 羽賀法子・森川莉緒 （京都府）
中学生団体	福井遥己・井上雄一郎 城澤大河・西尾友花 服部美空・大久保柊弥 （北海道）	松永海央・帆足愛歌 奥田祐也・沢良木駿介 沢良木優介・レツウンチ 藤本柊弥（大阪府）	丸山泰生・鳴戸翔也 横田匠海・樽井拓海 坂井駿太・橋本純平 藤井柚葉・谷口心咲（和歌山県）
男子単演有段	岩瀬勝稔（神奈川県）	木原結城（大阪府）	田家涼太郎（香川県）
女子単演有段	斎藤桃花（北海道）	山本千尋（北海道）	久田友香（大阪府）
男子単演級拳士	河村征（岡山県）	井上将（埼玉県）	岩本宗也（京都府）
女子単演級拳士	田尻曜子（京都府）	成田祐佳（宮城県）	伊藤彩華（静岡県）

好評発売中

『人、人、人、
すべては人の質にある……』
少林寺拳法創始者・宗道臣先生に
直接手ほどきを受けた著者入魂の
武道教育論！

可能性の

種子たち

『魄』は生きるための生命力——
『魂』は人間を善に導く原動力——

魂魄(こころ)が健全に育てば、豊かな感性や
意思力、行動力などが備わり、やがて得るであ
る多くの知識を、智慧とすることができると
子どもたちの躍動の一つひとつが、可能性の種
子の芽生えなのである。

—魂魄(こころ)を育てる—

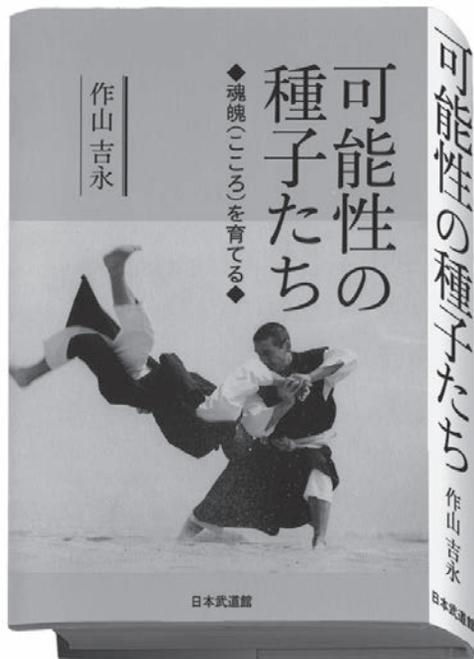
金剛禅総本山少林寺茨城高萩道院長

作山吉永 著

(四六判・上製・338頁)

主な目次

- 第1章 少林寺拳法 / 第2章 直心是道場 / 第3章 師事 /
- 第4章 マイ・アメリカ / 第5章 可能性の種子、芽吹く /
- 第6章 嵩山少林寺 / 第7章 魂魄(こころ)を育てる /
- 第8章 新しい扉を開く



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



少林寺拳法は4話を掲載！



第23回世界空手道選手権大会

日本は金6個でオリンピックピツクへ好発進



男子個人-84kg級優勝＝荒賀龍太郎（左）

2年に1度、空手道世界一を決める「第23回世界空手道選手権大会」(主催：世界空手連盟(WKF))が10月25日～30日、オーストリア第3の都市リンツで開催された。16種目が競技され、110の国と地域から1000名をこえる選手が出場した中、日本は6種目で金、2種目で銀、1種目で銅、計9個のメダルを獲得、総合第1位の成績を残した。昨年8月、空手が2020東京オリンピックの追加種目となり、各国の競技力が著しく上がる中での快挙だった。

(写真・文)空手道マガジン
月刊JKFan

■男子個人組手

◇-84kg級

荒賀龍太郎(荒賀道場)が本大会3度目の決勝進出で初優勝を果たし

た。荒賀は2012年パリ大会で地元フランスのケンジ・グリヨンに、2014年ブレーメン大会ではグルジアのゴギタ・アルカニアにそれぞれ



男子個人-84kg級決勝=荒賀龍太郎(左)対ママエフ

荒賀龍太郎、求め続けた世界選手権金メダル



「ずっと獲りたくて獲れなかった金メダル、本当に嬉しいです。空手に集中できる環境を作ってくれた両親、大学関係者、応援してくれた方に感謝の気持ちでいっぱいです。この結果に満足することなく、これからも練習を重ねます」

れ決勝で敗れて銀。優勝する力がありながら「(競技中に)不安を抱えていた」という荒賀、以来、技や体力だけでなく、精神面や栄養、コンディショニングなど万全の準備をして今大会に出場したのだった。

初戦から失点を許さず勝ち上がり、決勝戦はアゼルバイジャンのマエフに先制して1ポイント。さらに相手が転んだ隙を見のがさず、突きを決めて一本(3ポイント)。4-0で勝利した。

◇-60kg級

大西英輝(京都産業大学4年)が初出場。ポイントも取れて動きは悪くなかったが、2回戦でイタリあのルカに敗退。1-1から残り8秒で1ポイント追加されてしまった。

◇-67kg級

五明宏人(帝京大学3年)は初戦でいきなり強豪のハナフィ(エジプト)と当たり、2-4で敗退。「慎重になり過ぎて反応が遅れてしまった」と冷静に振り返った。

◇-75kg級

渡邊大輔(松涛連盟)は2回戦で、フランスの団体組手にも選ばされた強豪ダコスタと対戦し、2-3の僅

差で敗退。

◇+84kg級

香川幸允(テアトルアカデミー)は初戦、元世界王者のスロボダン(セルビア)に逆転勝利するも、2回戦でエクアドルのミナに上段蹴りを決められ敗退。気持ちを切り替え団体戦で活躍した。

■女子個人組手

◇+68kg級

これまで2大会連続銅メダルの植草歩(高栄警備保障株)が、ついに念願の初優勝を果たした。植草は、クロアチアのマーサやイランのハミデといった頭一つ高い長身選手との対戦が連続するも、積極的な組手で勝利を重ね、決勝へ。ギリシャのハジリアドウと対戦し、ワンツーが決まらなさと見ると中段突きに切り替え、懐深く潜ってポイントを獲得、勝利した。「笑顔」をモットーに、辛い時も苦境でも努めて明るく乗り切る植草。しかし、金メダルを胸に掛け、表彰式で君が代を聴いた時だけは、感極まり、顔を覆って、うれし涙を流した。植草は、「得意技の中段突きで得点できて良かった。ず



女子個人-50kg級準優勝=宮原美穂 (左)



女子個人-55kg級3位=山田沙羅 (右)



女子個人+68kg級=植草歩 (右) が悲願の金メダル

つと目指してきた世界一、本当に嬉しい」とコメント。



女子組手+68kg級優勝=植草歩

◇-50kg級

本大会初出場の宮原美穂(帝京大学2年)は、元気の良さが光る組手で決勝進出を果たし、世界チャンピオンのレキア・アレクサンドラ(フランス)と対戦。宮原の突きが入ったように見える瞬間が数多くあったが副審の旗は拳がらず、3―5で敗退。しかし、次回以降の大会で金メダルを獲れる可能性を十分に感じさせる内容だった。

◇-55kg級

山田沙羅(大正大学4年)は準決勝でブラジルのバレリア・クミザキに敗れるが、3位決定戦では世界チャンピオンのサラ・カルディン(イタリア)に対し、突きと突きの間に

絶妙なカウンターを決めて勝利。銅メダルを獲得した。

◇-61kg級

前回大会3位で期待がかかった染谷真有美(茨城県職員)だったが、2回戦でベトナムの新人グエンに思わぬ蹴りをもらうなどし、敗退。試合運びを研究したいと試合後に語った。

◇-68kg級

2012年王者の染谷香予(テアトルアカデミー)。3回戦でボスニア・ヘルツェゴビナのイヴォナに敗退。距離が合わず、攻撃が届かないパターンが多くなってしまった。両親を大会に招待してただけに、「メダルを見せたかった」と語る。

■団体組手

男子団体組手で日本が、1975年の第3回大会以来、実に41年ぶりに決勝進出を果たした。ウクライナ、カザフスタン、スペイン、そして準決勝でドイツを降して勝ち上がった。決勝の相手は重量級選手の揃う、前回大会優勝のイランである。先鋒の西村拳(近畿大学3年)は、イランのホダバフシユに0―1で敗



男子団体組手チーム

(左から西村拳、香川幸允、荒賀龍太郎、飯村吏毅哉、渡邊大輔、篠原浩人、石塚将也)

退。一瞬の隙を突かれてしまった。しかし、次鋒は日本のエース荒賀龍太郎(荒賀道場)が7-1で勝ち、ポイントを稼ぐとともに状況を1勝1敗に戻した。重要な中堅は、香川幸允(テアトルアカデミー)がイランのサジャドと対戦。取っては取られての乱打戦となるが、後半疲れを見せた相手を香川が追い上げ、6-

4で勝利。しかし、副将戦ではイランの団体戦主砲である大型選手アスガリが登場し、飯村吏毅哉(南綱田牧場)に8-0で完勝。2勝2敗、総ポイントは日本13、イラン14で、篠原浩人(株セレ・ナス)が大將戦に臨む。相手はイランの主力ザビオラだ。-67kg級の篠原に対し、ザビオラは-84kg級と体格差のある戦いになったが、篠原は仕掛けるタイミングを待ち続ける我慢の組手で、相手には隙が出来る「攻撃の瞬間」を狙った。立て続けにカウンターを決め、篠原が2-0とリードする。ザビオラの激しい追い上げを食らうも、3-3、4-4と接戦に持ち込む。しかし残り9秒で至近距離からザビオラが突きで1ポイントを決め、勝利。2勝3敗でイランが2大会連続の優勝となったが、日本の健闘は感動を呼び、世界一も決して遠い夢ではないことを証明した。

女子団体組手は染谷香予(テアトルアカデミー)、植草歩(高栄警備保障株)、川村菜摘(帝京大学4年)

で臨み、3大会連続のメダルに期待がかかったが、3回戦でイタリアに敗退した。

■個人形

男女ともに2014年ブレイメン大会優勝の清水希容(ミキハウス)と喜友名諒(龍鳳会)が出場。清水

は準決勝で欧州王者サンドラ・サンチェス(スペイン)を降し、喜友名は同様に元世界チャンピオンで依然カリスマ性を誇るアントニオ・デイ



男子個人形優勝=喜友名諒(龍鳳会)



女子個人形優勝=清水希容(ミキハウス)



男子形優勝＝喜友名諒



女子形優勝＝清水希容



男子団体形優勝＝左から上村、金城、喜友名



女子団体形優勝＝左から森岡、大野、山下



パラ空手視覚障がい部第3位
＝大庭康資(ユニバーサル松濤館連合)

アス(ベネズエラ)を3-2で降し、決勝進出。清水はエジプトのサラ・サイドに対して、得意形のチャタニヤラ・クーサンクーを、喜友名は欧州王者のダミアン・キンテロ(スペイン)に対し伝家の宝刀アーナンを演武。体軸から生み出されるパワー、安定した立ち方、ゆっくりとした動きすら完璧にコントロールする繊細さ、あらゆる要素で上回り、両者5-0の完全勝利だった。

清水は「今大会で、新しい自分に

出会えた気がします。この舞台上に立っていることに喜びを感じながら演武しました」と、内容にも納得の様子。喜友名は「目指してきた2連覇、そして仲間との団体形優勝を達成でき嬉しいですね」と優勝の喜びを語った。

■団体形

男子団体形の日本は、個人2連覇達成の喜友名諒と、上村拓也、金城新(いずれも劉衛流龍鳳会)から成る沖繩チーム。伝統的な技術と共に

パワーとスピード、爆発力を兼ね備える。決勝の「アーナン」はその迫力と高度な技術に惹き付けられた観客が思わず笑顔になってしまっただけの出来で、5-0で優勝。とくに分解はさすが空手発祥の地・沖繩の選手と言わなければならない攻防だった。

女子団体形の日本は、前回大会準優勝のチームから木村陽子が引退し、大野ひかる(大分市消防局)が加入。ところが、9月に山下紗葵(同

志社大学4年)が足を骨折し、最終調整の時期に全力で練習できないというトラブルに見舞われた。だが、リーダーの森岡実久(株セレ・ナス)を筆頭に執念で演じ切り、決勝はスペインのバイクーにクルルンファで5-0で完勝。前回大会、決勝でまさかのミスが起こり優勝を逃しただけに「奪還した」金メダル。思いもひとしおであった。

■「パラ空手」

2012年にプレ大会、2014年より正式大会が実施されている世界障がい者空手道選手権大会は今回より「パラ空手」と名称を改め、男女視覚障がい・男女知的障がい・男女車椅子の計6種目で形競技を実施した。

日本からは男子視覚障がいの部に

前回銀メダルの大庭康資が出場し、予選で得意のエンピ、3位決定戦で難易度の高いウンスーを演武し、銅メダルを獲得した。また、男子知的障がい部には今在家翔太が初出場。メダル獲得はならなかったが、予選グループ第3位という入賞まで僅差の結果であった。

▽林晃日本代表監督コメント

「選手たちがよくやってくれました。監督就任以来2年、連盟の支援のもと、戦術・医科学・メンタル強化などの成果が出たと思います。今後も今大会の反省点を分析し、オリンピックに向けて取り組みたいです」



競技以外のニュースも豊富であった。まず、大会に先立って行なわれたWKF総会で、(公財)全日本空手道連盟の笹川堯会長が、WKF名誉会長に就任することが決定した。長年の空手界への寄与、とくにオリンピック採用を目指したキャンペーンでの多大な貢献を称えての任命だ。また、大会MVPに形2連覇を祝して喜友名諒、清水希容の両選手が選出された。MVPは計6名。

そのうち2名が日本人だった。また、このたびWKF選手委員会の改選があり、喜友名が最多得票で当選。アスリート・ファーストの精神のもと、より良い競技環境を構築するため、選手の意見をWKF理事會に伝える役目を担う。国際的な舞台で日本のプレゼンスを高める意味でも意義深い当選であった。



日本選手団の集合写真

【大会結果】

	優勝	2位	3位	日本・日本人選手結果		
男子	▽組手					
	団体	イラン	日本	ドイツ/フランス		
	個人	-60kg級	Mahdizadeh Amir(イラン)	Berens Geoffrey(オランダ)	Farzaliyev Firdovsi(アゼルバイジャン) Agoudjil Sofiane(フランス)	大西英輝(京都産業大)=2回戦敗退
		-67kg級	Thomas Jordan(イングランド)	Tadissi Yves Martial(ハンガリー)	Dacosta Steven(フランス) Madera Andres(ベネズエラ)	五明宏人(帝京大)=2回戦敗退
		-75kg級	Aghayev Rafael(アゼルバイジャン)	Abdel Rahman Omar(エジプト)	Asiabari Aliasghar(イラン) Busa Luigi(イタリア)	渡邊大輔(松涛連盟)=2回戦敗退
		-84kg級	荒賀龍太郎(荒賀道場)	Mamayev Aykhan(アゼルバイジャン)	Poorshab Zabiollah(イラン) Grillon Kenji(フランス)	
		+84kg級	Ganjzadeh Sajad(イラン)	Ouchen Achraf(モロッコ)	Kvesic Andjelo(クロアチア) Nishevci Herolind(コソボ共和国)	香川幸允(テアトルアカデミー)=2回戦敗退
	▽形					
	団体	日本	フランス	イタリア/スペイン		
	個人	喜友名諒(龍鳳会)	Quintero Capdevila Damian Hugo(スペイン)	Smorguner Ilja(ドイツ) Diaz Antonio(ベネズエラ)		
女子	▽組手					
	団体	フランス	スペイン	アメリカ/エジプト	日本=3回戦敗退	
	個人	-50kg級	Recchia Alexandra(フランス)	宮原美穂(帝京大)	Sayed Radwa(エジプト) Plank Bettina(オーストリア)	
		-55kg級	Thouy Emilie(フランス)	Kumizaki Valeria(ブラジル)	山田沙羅(大正大) Wen Tzu Yun(台湾)	
		-61kg級	Lotfy Giana(エジプト)	Ignace Lucie(フランス)	Serogina Anita(ウクライナ) Suchankova Ingrida(スロバキア)	染谷真有美(茨城県職員)=2回戦敗退
		-68kg級	Buchinger Alisa(オーストリア)	Pedersen Katrine(デンマーク)	Cavar Ivona(ボスニア・ヘルツェゴビナ) Rakovic Marina(モンテネグロ)	染谷香予(テアトルアカデミー)=3回戦敗退
		+68kg級	植草歩(高栄警備保障)	Chatziliadou Eleni(ギリシャ)	Tatarova Dominika(スロバキア) Abbasli Hamideh(イラン)	
	▽形					
	団体	日本	スペイン	イタリア/トルコ		
	個人	清水希容(ミキハウス)	Sayed Sarah(エジプト)	Bottaro Viviana(イタリア) Sanchez Jaime Sandra(スペイン)		

好評発売中

絵と文 中村麻美 (なかむらまみ)

F4判・上製・98頁・定価(本体2700円+税)

伝えたい日本のこころ



中村麻美 (なかむらまみ) 画家・挿画家。三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大学卒。大学在学中、日本画教室(田中峰雪氏に師事)にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教授業、第十八代ミス日本グランプリ、NHK BSニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者などの挿画を手がける。また、原作新聞小説

挿画を描いたNHK大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。代表作に『天地人丸紋絵巻』(兼続お船ミュージアム所蔵)、『斎王』(三重県立高宮歴史博物館所蔵)など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のこころ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」——こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。(本書「あとがき」より)

目次

- 一 かしこい小僧さん
- 二 ひより越え
- 三 天の石屋戸
- 四 巖流島の決闘
- 五 太田道灌と少女の歌
- 六 三本の矢の教え
- 七 山中鹿介―我に七難八苦を与えたまえ
- 八 良寛さまと笛
- 九 民を慈しむ仁徳天皇
- 十 中江藤樹―母への葉
- 十一 夫の危機を救う弟橘媛
- 十二 良子齋王―別れの御櫛
- 十三 桜井駅の別れ
- 十四 川中島の大蛇
- 十五 八雲の戦い―謙信と信玄
- 十六 紅梅内侍と鶯の宿
- 十七 新羅三郎義光―笙の秘曲を授ける
- 十八 小松姫―夫の居城を守りぬく
- 十九 青の洞門
- 二十 鍋島直茂と接ぎ木
- 二十一 小林虎三郎―米百俵の精神
- 二十二 島津義弘―関ヶ原敵中突破
- 二十三 光明皇后―千人のからたを洗う
- 二十四 城戸俊三―勝利を捨てて愛馬を救う
- 二十五 松坂の一夜
- 二十六 柳に飛びつく蛙
- 二十七 称名寺『青葉の楓』
- 二十八 神武天皇と東征
- 二十九 本多忠朝とサンフランシスコ号
- 三十 つるべの朝顔
- 三十一 野中兼山―海に捨てたはまぐり
- 三十二 鎌
- 三十三 因幡の白うさぎ
- 三十四 堪忍のわび証文
- 三十五 橘曙覧『独楽吟』
- 三十六 南総里見八犬伝
- 三十七 吉田松陰の志
- 三十八 鳥居強右衛門の勇氣
- 三十九 明智光春―誉れの湖水渡り
- 四十 赤穂義士の討ち入り
- 四十一 頼朝を助けた梶原景時
- 四十二 真田幸村―大坂の陣
- 四十三 天照大御神と美し国・伊勢
- 四十四 和田勇―祖国にオリンピックを招致
- 四十五 長岡花火『白菊』

編集・発行 公益財団法人日本武道館
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 まどろろ!

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



<増補版>

私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。